2月號

婦人運動

第6卷第2號

職業婦人社發行

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）昭和三年一月三十日印刷納本　同三年二月五日發行　第六卷第二號

新刊無産社パンフレット

堺利彦著……價十錢
改版
社會主義大意

◇社會主義は毒藥か砂糖か。貧富の始まりから勞働者の天下までかんでふくめるように、此の一書の中に說き盡してある。誰の爲に危險なのか、資本制度の時代、資本家と勞働者、都會と農村、地主と小作人、資本制度が壞れる、帝國主義、世界戰爭其他。

ミウレン著荒畑寒村譯……價五十錢
無産者童話
なぜなの

◇プロレタリヤの少年には、プロレタリヤの生血の滲み出た、現實の、躍動する、生命のこもつた童話を與へねばならぬ。本書は實にその童話だ。美しい挿圖、優しい、雄々しい文學は少年の心をとらへずにはおかない。

ゾラ原著　堺利彦譯……價七十錢
ジエルミナル

◇虐げられた群が頭をもちあげ、人間生活の矛盾と不合理をあばき立て、新社會建設に志して來た。木の芽立ちのように、全世界の彼方、此方に！本書は坑夫生活を中心に雄大、深刻、悲壯、痛烈を極めてこの間の消息を描き出したもの。

近藤榮藏著……價十錢
新ロシアの婦人

◇社會主義の國『新ロシヤ』に於ける婦人の生活、社會的地位、戀愛關係、結婚生活、勞働生活等の各方面にわたつて赤裸々に、しかも名文をもつて描かれたもの婦人國の眞相、社會主義國の婦人の狀況を知る上に重要なものである。

堺利彦著……價十錢
婦人問題の本質

◇婦人の過去、現在、未來に亘つてマルクス主義の立場より平易、明解に說き明したもので、特に我が國古代の婦人の地位境遇より近代の婦人を論究してある等他類書の追隨を許さない。婦人問題文献の僅少な今日各階級の人々に一讀を薦める。

堺眞柄編……價十錢
ロザの手紙

◇ロザ・ルクセンブルグはドイツ共産黨を創立した有名な婦人で、一九一九年一月十五日軍閥の暴徒の爲めに虐殺されたのである。本書は革命家として、學者として偉大な此の人が、一面に於て如何にやさしい性情を有したかを知る最もよいものである。

堺利彦著……價三十錢
社會主義學說大要

◇マルクス學說を簡單に理解する爲に最も便利な手引書である。無産階級の獨立の學問、唯物史觀の解說、歷史進化の事實的說明の三章に別れ、唯物論と唯心論、唯物史觀と唯心史觀、唯物史觀の要領等最も平易親切に說述されたものである。

□圖書目錄無代進呈、（但し二錢切手封入のこと）月刊『赤い星』は一部三錢年三十錢

發行所　東京麴町八ノ二〇　振替東京二四六二六　無産社

定價　二十錢　五十錢
　　　一圓　二圓

小兒に宇津の救命丸

こどもむしけかんの良薬

本舗　東京飯田町　下野高根澤　宇津

第六巻第二號 婦人運動（二月號目次）

日本エツセイ叢書

第十篇

水守龜之助著

侯蟲時鳥

（装幀著者）　四六判　二五〇頁　定價一圓　送料八錢

これは近頃での面白い文集だ。由來著者の隨筆や感想は飄逸で洒脱で詩趣極めて豐かである。而も七分の霸氣と三分の奇骨を藏してゐる。本書は即ちその精粹を集めたものである。著者自ら描くところの装畫の輕妙さ。また以つて珍とするに足る。

第五篇

新居格著

季節の登場者

（恩地孝四郎装幀）　四六判　美装　定價一圓二十錢　送料八錢

骨の髓から自由人たる著者が、流麗無比の文章と新鮮な感覺を以て、人事自然を縱橫に描き論じたのが本書である。モダンガールの文字各篇に躍り、獨自の變態心理的見解を説くあたりは、眞に著者の獨壇場といつて好い。讀者若し、本書を手にせば卷を措く能はざる興味を感得するであらう。

第一篇　澤田謙著　弗でない男　定價一圓二十錢

第二篇　高畠素之著　自己を語る　定價一圓二十錢

第三篇　下田將美著　黎明の女性　定價一圓二十錢

第四篇　白柳秀湖著　聲なきに聽く　定價一圓二十錢

第六篇　土岐善麿著　春歸る　定價一圓二十錢

第七篇　正宗白鳥著　文壇觀測　定價一圓二十錢

第八篇　藤井悌著　ナポリの浮浪兒　定價一圓二十錢

第九篇　澤田正二郎著　蛙の放送　定價一圓

東京市牛込矢來町六六　人文會出版部　振替東京六九四〇八

婦人運動

二月號



◇**いよ〳〵普選の新時代**　二月二十日は最初の普選の投票日である。一千萬の新有權者よ、長い間既成政黨の政治家どもに依つてもみくちやにおもちやにされて來た普通選擧だ。汝の一票を以てブルヂョア政黨をぶつ潰せ。投票は必ず無産政黨の候補者へ！

◇**婦選なくして何の普選ぞ**　然し婦人は未だ普選の圏外にほうり出されてゐる。選擧權ばかりか、被選擧權も、政黨に加入する自由さへも禁ぜられてゐるのである。國民の半數を置き忘れて來たこの普通選擧。婦人達は起つて、この政治上の自由を獲得するために戰はねばならぬ。

◇**「泣きおとし」御法度**　新選擧法は一切の戸別訪問を禁止した。これまで選擧には附き物であつた××夫人や△△女史の叩頭哀願的戸別訪問が一切その影をひそめたと思ふとホツとする。嚴正なるべき一票のもつ權利である。參政權の獲得運動にしても懇願歎願の態度に出るべからず。當然の權利として、婦人は堂々こ



れを要求するのでなければならぬ。

◇某某婦人參政團體の決議　婦人參政權を政綱の中に掲げてゐる候補者ならば、どの政黨に屬してゐやうとも辯士應援推薦狀發送をすると云ふ。何でも彼ンでも參政權をえさえすればいゝんだ、といはぬ許りのこのミズテン式は、結局婦人大衆の政治的大道を傷けるもの、既成政黨の欺瞞より婦人を救へ。婦人の支持すべき政黨は無産政黨より外になし。婦人は一人のこらず無産政黨へ。

◇各婦人同盟の聲明　全國婦人同盟、關東婦人同盟では、總選擧對策として無産諸政黨の選擧協定の成つた方面に於て協定を助けろ、とそれぞれに發表した。何ゆえに、協定のために婦人は、進んで斡旋努力すると出なかつたのか。今や選擧協定、進んでは、全勞農政黨の合同は、無産大衆の火の如き要求である。そのために選ばれた斡旋者の一人として、婦人は勇敢に協力しなければならぬ。

◇各無産婦人團體の諸姉妹よ、協力しよう（奥）





無産婦人運動について立場を明らかにする

山川菊榮

一

前號の高群逸枝氏の論文「婦人運動の單一體系の新提唱」について何か書くようにとの奥むめお氏からのお手紙で一應通讀はしたものの、現在の私として仔細に批評するだけの興味を感じえないので、それとは別にたゞ簡單に無産婦人運動に對する私の立場を明らかにすることだけに留めておく。

婦人の地位の歴史的な發達が、經濟組織の變遷に伴なつてきたこと、資本主義の社會に入つて始めて婦人解放の要求が起つたのもまた、この新しい經濟組織の生み出した結果であつて、將來におけるその解決も、ひとへに社會の經濟的變革と相伴ふものであり、その變革を促進することによつてのみ、婦人の完全な解放が實現せられるといふのが、婦人問題に對する吾々の根本的な見解である。

私有財産制度による社會の階級的分裂は、單に男子の上に作用したのみでなく、同樣に女子の上にも作用した。婦人は婦人として男子に隷屬せしめられると同時に、その大部分は、更に被搾取者として、搾取者階級の經濟的、政治的支配のもとに隷屬せしめられた。ブルジョア婦人運動は、この皮相的、形式的な、全婦人に共通の性的隷屬の事實だけを認めてそれと戰ふことによつて婦人の解放が實現せられるように考へてゐる。從つて資本主義社會の内部で、婦人の不平等を規定する立法や慣例を撤廢することに、その運動の究極の目標をおいて居る。けれども無産階級の婦人にとつては、性的隷屬

と階級的隷屬とは、一にして二ではない。イギリスやアメリカのように、法律上の平等がかなりの程度に實現したところでさへ、無産婦人の性的、經濟的隷屬狀態に何らの變化もないことは、もとより事新しく說くがものもない。法律上の平等——ブルジョアーデモクラシーは、男女の不平等が、さういふ形式的、皮相的な點から起つたものではなくて、ひとへに經濟的な原因からきてゐることを明白にする效果をもつ。それは、いかに教育、職業の平等が認められ、參政權が認められたところで、資本主義下においては、男子も女子も、遂に賃銀奴隷の狀態を脫することはできず、加ふるに女子はその性の故に二重の隷屬に甘んぜねばならぬ事實を、最も露骨に、赤裸々に曝露する效果をもつ。同時にそれは運動の自由を擴大する。けれどもそれ以上のものではない。卽ち解放への道ではあるが、解放そのものではない。

無産階級においては、男女の利害は根本的に一致してゐる。この根本的な利害の一致を蔽ひかくして兩性の階級的團結を妨げるものは、女子を對等の僚友と見ずに奴隷視する男子の偏見であり、自己を獨立の人格者と見ずに男子の附屬物と考へる女子の奴隷的な態度であり、その地位である。この男女間の因襲的な差別の撤廢は、兩性の階級的團結の上に、基礎的に重要な條件である。故に吾々は、無産階級の陣營內において、この問題を特に力說する必要がある。同時に、男子から嚴重に差別せられた特殊的な地位におかれ、從つて特殊的な心理を發達せしめられた婦人大衆を、無産階級の運動にひきつけるには、單に男子に訴へるのと同じ一般的な方法だけでは足りない。それにはその特殊的な地位と心理とに應じた特殊的な方法が必要である。無産階級の婦人運動とは、無産階級運動の內部におけるこの特殊的な方法の謂にすぎないのであつて、それは單一な階級的基礎の上に立つもので、決して運動の一般的な利害から獨立した、獨立の性別的な運動ではありえず、また、あつてはならないのである。

二

婦人の利害は階級的利害と緊密に一致してゐる。だから無産階級には、階級的な問題はあるが婦人問題はない。卽ち無

産階級の間では、特に婦人問題を云々し、婦人運動を起す必要はないといふ議論が、コムミュニストをもつて任ずる左翼指導者の間にさへ行はれたことがあつた。大正十四年夏、現に關東婦人同盟及び全國婦人同盟が綱領としてかゝげてゐるのと殆んど同一の條項を、無產政黨の綱領の中に追加することを、當時政治研究會神戸支部に屬した私達少數の者が中央の左翼指導者に提案した時、その人々はこれらの諸項を『小ブルジョア的、非階級的』なものであるとして一蹴し、その聲に應じて、婦人指導者もこぞつてこれに反對したものである。筆に口に忙しい論戰を重ねた後、私達の意見は漸く容れられた。こういふ風に『資本主義社會の內部における、婦人の社會的、政治的自由の要求は、全婦人に共通のものであるが故に、ブルジョア的ないし非階級的な婦人運動にとつてのみ意味があつて、無產婦人にとつては無關係の問題である』といふような機械的な考へ方と戰つた結果として、謂ゆる『婦人綱領』は採用されたのであつたが、實際のところ、この婦人綱領は、決してブルジョア婦人運動におけるが如く、無產婦人運動にとつては基礎的に重要なものでなく、それは婦人の特殊的地位とその特殊的な心理に訴へるための特殊的な方法の一つであり、階級的團結の過程への一つの手段にすぎないのである。卽ち無產婦人運動は、これらの目標に達するための手段ではなくして、これらの一時的な、手近かな目標こそは、無產婦人運動の究極の目的——全階級の解放——を達成するための手段の中の一つであり、最も初步的な啓蒙的な段階にすぎないのである。

ブルジョア婦人運動は非階級的な性別本位の運動であるから、その運動の主體として婦人團體を持たない譯にはゆかない。しかし無產婦人運動は、性別本位の運動ではなくて階級的な運動の一部分にすぎないのであるから、婦人團體によらない婦人運動を常としてゐる。卽ち勞働組合、農民組合、無產政黨等あらゆる無產者團體の內部における婦人の活動を總稱して婦人運動といふので、婦人運動のために婦人團體を組織する例は、保守的、改良主義的な第二インタナショナルにおいてすら奬勵せられない。現に英國の勞働黨婦人部の如き最も右翼的なものさへ、黨外に婦人團體を組織することには反對してゐる。但しこの場合には、內實は共產分子の反幹部的な活動を抑壓する政策からきてゐるのではあるが、ともか

くも、表面は階級的な立場から無産婦人は勞働組合、消費組合、勞働黨に組織すべきで、特殊の婦人團體創立には反對するといふ決議を昨年度の大會で通過してゐる。婦人運動について最も積極的な態度をもつ第三インタナシヨナルは、コムミュニストが、小ブルジョアその他の婦人團體に參加して、それを利用することは必要とみとめるが、コムミュニスト自から婦人團體をつくることにはあくまで反對し、たゞ特定の目的のためにのみ、協同戰線を張る意味でのみ、例外的婦人團體をつくることを認めてゐるにすぎない。その特殊の目的とは、たとへば婦人參政權、結社權獲得のような限定されたものをいふので、そういふ運動は、勿論コムミュニストもそれに參加し、時には指導的な地位に立つことさへあるにしても、決して無産婦人の指導的な中心ではなくて、その仕事の一部分――特に初步的な一部分――を意味してゐるにすぎないのである。（無産婦人運動の指導的な中心は、いふまでもなく、前衛黨になければならぬ。）

　無産政黨の綱領に、婦人に關する條項の追加を要求した當時、私はあれだけの條項が是非挿入されなければ婦人運動が進展しえないものとは考へず、たゞ挿入された方が一層好都合だと考へただけであり、殊に行動綱領が極めて具體的な細目にわたつた關係上、特にそれを主張したにすぎないので、あの婦人綱領だけをひきぬいて特殊の婦人團體をつくるといふようなことは、必要なことゝも、有利なことゝも考へてはゐなかつた。

　だからあの婦人綱領を『非階級的』として排斥した人々自身、こんどはそれを看板にした『婦人同盟』を起すことを提案した時、私は頑强に反對した。その當時、婦人勞働者を包容した唯一の左翼的な團體は日本勞働組合評議會であつたがそれさへ、創立後約半ケ年を經た十四年秋まで、婦人部の存在が疑はれたほど、婦人に對しては不活動の狀態にあつた。私は全無産婦人運動の基礎的な第一步として、まづ組合婦人部の確立と活動とを力說せねばならなかつた。そして勞働組合、農民組合の婦人部確立の上で、婦人代表者會議の一形體として、各無産團體婦人協議會を設立することにより、左翼團體以外の、一切の無産團體に働らきかけることをもつて、運動の根本的方針となすべきであると考へた。十月に開かれた評議會の全國婦人部協議會は、大體においてこの方針を採り、婦人同盟案は保留されて、組合婦人部の確立が當面の急

務とみなされ、その婦人部の任務を明らかにするために、婦人部テーゼの作製をみるに至つたのである。

然るにそれより約半年後、突如として中央委員會から婦人部撲滅論が起り、ひいて組合婦人部の指導機關としての婦人同盟案が復活された。

この後、約一ケ年を經て左翼――詳くいへばその一部である、極左分裂主義者――の手で關東婦人同盟が創立されるまで、極左派の陣營における婦人運動の方針は、幾變轉を重ねたのであつた。現にその指導者の一人、佐野學氏の如きは、大正十四年秋、『婦人公論』紙上に無産婦人運動における婦人團體の組織に反對して、婦人代表者會議說を支持して居られたくらゐであるし、十五年秋には、婦人同盟案は排斥せられて、婦人協議會準備委員會が左翼團體の間に創立せられたほどである。尤も私自身としては、婦人協議會說を最初から主張してはゐたものゝ、この準備會成立の時期と手續きとに對しては、全く意見を異にし、それは一に極左指導者の意見から出たものであることを附記しておかねばならぬ。しかしこの準備會も、極左主義者の無方針、無定見の結果、いつともなしに葬られて、婦人同盟案が、遂に最後の確定的な方針として採用されたことは事實の示す通りである。

三

無産階級運動の方針として、特殊の婦人團體をもつことの可否は、原則的には既に決定せられてゐる。そこでこの原則に例外をつくつて特に性別本位の團體をつくるためには、何等かの特殊な理由がなければならぬ。私の見る所では、最初婦人同盟案の提唱されたのは、婦人が治警第五條によつて政黨加入を禁止されてゐる結果に外ならない。從つてたとへ婦人團體をつくるにしても、その性質は、結社加入權獲得までの、一時的なものにすぎないとしなければならず、この點を十分意識し、明白にしておかねばならなかつたのである。しかるに私の知りえた限りでは、婦人同盟は、結社權獲得の後までも繼續する方針で計畫されたものである。無産政黨の婦人部と機能を等しくするかゝる婦人團體が、何故に――結社

權獲得の後までも——黨婦人部と並存せねばならないかを私は今でもあやしんでゐる。

婦人同盟を黨婦人部の代用物として——客觀的に見ればたしかに現在の婦人同盟はそれである——組織するならば、それが結社權獲得までの一時的な性質のものであることを明白に意識しなければならないし、もし又結社權獲得以後までもつゞく永久的なものであるとしたならば、黨婦人部との機能の相異を明らかにしておかねばならぬ。この點について極左指導者の意識は極めてもうろうとしてゐるらしい。

黨婦人部の外に婦人團體をおく必要があるとすれば、それは結社權獲得ぐらゐの、極めて手近かな、低い目標を中心にしたもので、從つて『理論鬪爭』や勞農黨支持のための團體ではなく、どの團體を支持するかは自由問題としておくべきではなかつたらうか。

これらの諸點において、極左指導者の考へ方は、ひとり第三インタナシヨナルの方針と背馳してゐるのみならず、當面の政策としても甚だ不徹底なものが多いと思はれる。私として特に遺憾に堪へないのは、かゝる無產婦人運動の方針確定について左翼婦人の間に何ら獨立の確乎たる意見がなく、極左指導者の意のまゝに操縱されて、一に盲從と追隨とを事としてきた實狀である。今日無產婦人運動の混亂狀態をひきおこした責任は、極左主義者の無方針、無定見と、その偏狹な徒黨的精神の負はねばならぬところではあるが、これらの指導者に對して、何ら獨立の批判力をもちえなかつた婦人指導者の態度は、もしコムミユストをもつて自から任じてゐるとすれば、何と考へてもあまりに心細い極みである。

無產階級の婦人運動は、性別本位の團體を中心とせず、階級的な、一般的な團體の內部に婦人を組織することを原則とすべきであり、この根本方針に基づいて吾國の婦人運動を起さねばならぬといふ私の意見は、極左分裂主義者とその追隨者とによつて『折衷主義、組合主義』の惡名のもとに葬り去られ、わが無產婦人の政治行動の第一步は、私から見れば根本的な誤謬としか思はれない、組合婦人部の活動を犧牲として成立した性別本位の團體組織によつて始められた。この小ブルジヨア的な性別本位の團體運動が、はたして永久的な方針として繼續せられるや否やは大いに疑ふ餘地がある。無產

階級の婦人運動を眞に階級的な運動として組織するためには、小ブルジョア的運動に陷る危險性を最も多量に含む性別團體を能ふ限り避けて、大衆的な無產者團體へ婦人を參加させるために努力すべきであるといふ私の信念は、關東婦人同盟が、無產婦人運動の本流として偉大な成功を博してゐるかの如く、無產者新聞等によつて宣傳せられてゐる今日でも、少しも動搖を感じない。否な、私はその構成要素や指導分子の間に小ブルジョア層の有力なことを知る關係上、ます〳〵その將來の運命に對して危險を感じないわけにゆかず、從つて無產婦人は、男女を共に包容する一般的な無產者團體へ組織する方針を力說する必要を、今に至つて一層强く感ずるのである。

勞農黨でも日勞黨でも、婦人問題を婦人團體に一任しておく消極的な態度を捨てゝ、婦人が正式に黨に加入しえない今日から、婦人のための特殊機關——即ち婦人委員會の如きものを設け、男子と共に何名かの婦人委員をおいて（黨員外の者でも顧問其他何らかの名儀で黨の仕事に參加させることはできる筈である）婦人に關する活動を、直接に指導し組織する必要があるのではなからうか。

とにかく現在の無產婦人運動の混亂狀態を救ふには、まづ第一に、性別本位の組織に婦人の指導權を與へた在來の方針を一擲し、大衆的な無產團體の內部に婦人を組織する方針——私が根强く主張し、極左主義者によつて折衷主義、組合主義として排斥せられた方針——を採用し確立すること、現在の各婦人同盟は、結社權獲得ぐらゐの制限された、水準の低い啓蒙的な運動を目標とする緩やかな團體たるに留め會員の政治的立場を拘束せぬことにして合同の機運を作り、（徐ろに階級的立場を取るように教育すべきは論をまたないが）、將來結社權が獲得せられた曉には、新たに特別の必要が起らぬ限り、解體すること、（その會員はすべて黨に、未成年者は他の無產者團體に組織する）、全國無產團體の婦人の活動を刺戟し、かつ其等の團體の婦人に對する活動を促進するためには、全國無產團體婦人協議會を開くことが、最も必要な手段ではないかと私自身は考へてゐる。これらはすべて極左分裂主義者が「折衷主義、組合主義」として葬り去つた方針ではあるが、いやしくも無產階級の婦人運動を眞に階級的な基礎の上に組織するためには、これ以外のいかなる方法を見出すことができるだらうか。

農民婦人の現實と未來

澁谷定輔

一

私は目下、非政黨同盟の運動に就いて、在京同志と打合はせをするために一昨夜上京し、只今ほんの暫らくの時間を得て、同志の家の二階でこの原稿を書いてゐる。一ト月おくれの正月をする私の地方は、今日は暮れの二十日である。一月一日から埼玉非政黨同盟の運動で縣下(埼玉)行脚宣傳をはじめ、殆んど今月は家を空けて了つた。父母と弟に家をまかせてゐるものの、暮れが押し迫つて來ると、何となく氣づかはれる。私はそんなことを思ひ乍ら、追ひ立てられるやうな氣持でペンを取つてゐる。

二

私が一農民としての自覺のもとに、農民運動を始めてから恰度今年で六年目になる。運動を始めやうとした、やむにやまれなかつた動機は勿論色々あつたけれど、その中で最も強く働いたのは『農民婦人』の問題であつた。

その當時私の母は、まだ四十になつたばかりの、農婦としては働き盛りの年頃でありながら、既に貧血病のために勞働不能になつて了つたのだ。五歳の時から粗食と過勞を強ひられ、一個の穀物生産機械にされて來た體は、もう完全に近く資本主義吸血魂の食殼にされてゐたのだ。母は貧血のために二三年間も殆んど勞働不能の狀態にゐながら、金を取られる恐ろしさに、醫者にかゝらふとはしなかつた。それは言ふまでもなく金があつてかゝらなかつたのではない。

私は母の體を治す爲めに色々と骨折つて見た。ある時は滋養物を取らせるために、一日の野良仕事を終へてから、魚取りをして、その金で葡萄酒などを買つて食はせたこともあつ

た。(たしか、赤玉ポートワインと言ふ奴だつたと思ふ。)そして私は母に言つた。「いまにキット俺れが「かたき」を取つてやるよ……」と、その時、母の兩眼には、いつも涙が光つてゐた。

「いまにキット俺れが「かたき」を取つてやる……」その私の叛逆精神は、遂に村の小作人達の胸に永いこと蘊蓄されて來た叛逆精神と共に相呼應し、小作爭議と言ふ形ちを取つて爆發し燃え上つて行つたのだ。

　私はいつも講演會の時、自分の母を始めとして、一般農民婦人が、如何に社會生活上、重要かくべからざる生産勞働に從事してをり乍ら、如何に悲慘なドン底生活を餘儀なくさせられてゐるかを叫びつゞけて來た。又今の中老農民婦人のあとを受けて、恰も地獄に落ち行く思ひを抱き乍ら、貧農家に嫁し行く若き農民婦人！　そのことを叫ぶ時、私は逆上せんとするばかりに亢奮し、思はず眼に熱い涙が湧く。

　沈默してゐると、その存在を忘れ勝ちにされるのは歴史上一つの現象であるかも知れない。けれども叫ぶ言葉すらも奪はれたる農民婦人に對して、一般自覺婦人のあまりにも無關心であることは、私の憤怒の一つであつた。が、一昨年あたりから、中央の雜誌に、ボツボツ思想家諸氏の「農村婦人問題論」を散見することは、よろこびとしなければならない。「婦人公論」誌上に於ける中西伊之助氏、「世界」の山川菊榮氏「婦人之友」の杉山元治郎氏、「婦人運動」の高群逸枝氏等の如きは、それぞれ、忘れられたる農民婦人の代辯者として叫ばれてゐた。

　私はその後、ある婦人雜誌の編輯者から、それら諸家の農村婦人論に就いて、一農民の立場からの意見を述べてくれと言はれてゐるが、農事と、農民運動のために、身も引き裂かれる思ひの時、どうしてペンを取る餘裕を持ち得やう。けれども、いつか私はまとまつた自分の「農民婦人問題」を披瀝して、諸兄姉の御叱正を乞ふ心算でゐる。

三

　私は農村婦人と言はずになぜ農民婦人と呼ぶか。今の農村婦人の中にも極めて少數ではあるが、大地主の婦人はもとよりのこと醫者、敎員、巡査、商人等の婦人は農村婦人であつても農民婦人ではない。これを農業勞働に從事してゐる農民婦人から見れば、一つの上部階級の婦人である。醫者、敎員

巡査商人等の婦人は勿論ブルジョア階級の婦人と呼ぶことは出來ない。けれども、『泥に汚れざる階級』の婦人として、若き農民婦人はもとよりのこと、中老農民婦人の『姑み』の階級である。斯樣に同じ農村に住む婦人も、大別して、二つに別れてゐる。

由來思想家諸氏が、農村婦人と呼ぶ時にはいつも私の呼ぶ農民婦人を指してゐるやうである。私は特にそれを農民婦人と呼ぶのは右のやうに同じ農村に住む婦人にも二つの階級があるからである。尙、同じ農業勞働に從事してをる農民婦人の中にも、地主兼、自作農、自作兼小作農、小作農と言ふやうに區別して、それ等異れる立場から、婦人の生活狀態を解剖し批評することも出來るが、今は只、農業勞働に從事しつつある農民婦人が一體何にを考へてゐるかと言ふことに就て述べることにとゞめる。

先づ、私の母の年頃（四十五六）を中心として、その前後の所謂中年、老年の農民婦人達は何にを考へてゐるか？ それは、どうすることも出來ぬ「あきらめ」そのもののやうに思ふ。既に一般は『あきらめ』などと言ふ意識的の氣持さへも全然ありはしないやうだ。けれども只、自分の子供だけにはかふした暮しだけはさせたくないと言ふことを無意識的にもつてゐるらしい。よく農村では、嫁の十年泣きと言ふ。實は二十年泣きださうだ。嫁しづいて十年、否二十年、と言ふものは、姑の下に、白を黑と言はれ、黑を白と言はれやうと一言もないのだ。たゞに姑に限らず、一家の者に對して殆んどこれに等しい。そして、まれに夫婦仲でもいいと變に思はれるのだ。二十三四から、二十五六にかけて結婚した農民婦人達は、それから約二十年、自分の長男か長女が、二十位になるまでは、全く息づく暇はない。只食はんがために働く一個の生產機械！ 只だ働かんがために働く機械！ それを一歩も出てはゐやしない。

東洋一の婦人雜誌として誇る『主婦之友』を初めとして日本で出版率の最も高いと言はれてをる、數限りなき婦人雜誌などを、結婚後にたとへ一頁でも讀むことの出來る農民婦人が、果して全國に何人あるであらうか？ 最も價値高き生產勞働に從事する者が、最も虐待されるとは？ おゝ何と言ふ文明は皮肉なることぞ！

我が母に何のためにそんなに體をこわしてまで若い時から働いたかと訊ねると『食ふに追れるからだ。そして年を取つ

て死に際に米の飯を食つて死にたいからさ、と言ふ。ありあまる米を作り乍ら、米を食へず、體をこはしてまで、死に際に米の飯を食つて死にたいからだと言ふ考へは、たゞに私の母一人のみでなく、一般中年老年の農民婦人の僞はらざる聲であらう。それに今一つの願ひは死ぬまでに一度、善光寺参りをして見たいと言つてゐる。けれどもそれ等は殆んど實行不可能のまゝ死んで了ふ者が八九分通りである。

又、かゝる悲惨な中老農民婦人の生活をまざ／＼と目撃し一般社會生活に眼を開きつゝある若い農民婦人は何にを考へてゐるか？　私はよく、農民生活の苦悶を訴へられる。そして、私達若い農民婦人は如何なる道を進むべきかなどと言ふ質問的な手紙を度々寄せられる。それ等の手紙は、どれもこれも、農民生活に深い絶望と、どうすることも出來ない境遇とに闘つてゐる、眞劍な苦悶の叫びによつて塗つぶされてゐる。現代社會生活に目覺めつゝある若い農民婦人が、百姓から抜け出さうとする欲求は實に命掛けのものである。

四

私はこの傾向――たゞに若き婦人に限らず、青年に對しても――農を捨てて他の職を求めやうとする。都會憧憬熱に就いて、それを農村振興を考へる道學者、土の思想家、又は御用教師等と共に、一概に悪傾向であると言つて呪ふ程、仲間達に對して無情にはなれ得ない一人である。それは勿論かゝる傾向を喜ぶべきことだと言ふのでは斷じてない。けれども眼前に地獄の生活を見詰めつゝ、そこに飛び込んで行く程、人間ならば勇敢さ（むしろ盲目さ）を持ち得るものではない私も最初は農村青年男女の都會憧憬熱に對して極力反對を叫んだ一人であつた。けれども今にして思へば、自分の考への淺かつたことを恥ぢる。私の欲するところは、農業の社會的人生的價値に自覺し、農民生活の中にのみ眞の人間的な創造的な自由なる生活の營み得られることを明確に認識し、かゝる價値ある生活をなさしめざるに至つた、不合理なる現代資本主義社會組織を××すべく農民生活をなす若き農民婦人の一人でも多く出現することを欲するものであるけれども青年の中に於いてさへかゝる農民意識を把握したる者は極く少數である時殊に婦人においておやである。しかし最近農民運動の發展にともない、全國各地にかゝる自覺農民婦人の出現を見聞することは私達の力強いことである。

五

目下デンマークの國民高等學校の教育精神を、我國に實現せんとして、岡本利吉氏が中心となり靜岡縣に經營開校中の農村青年共働學校の如き、特にわれわれの注目すべき計畫である。かゝる學校がます／＼全國各地に起されて、農民青年男女が、明確なる農業生活の價値を把握し、農村改造の任にあたられることを、私は心から期待してやまない。

農民生活に絶望するものは躊躇せずに農を捨てるがいい。地獄に落ち行く思ひして農家に嫁し行く若き農民婦人達よ、御身等の姿はあまりに悲慘である新興自治農村の建設は明確に現代社會組織の不合理と、農業生産勞働の價値を把握したる者によつてのみ成し遂げられるのだ。

わが職業生活

岡とし子

職業とは、人擦れのすることか。いつの間に習ひおぼへたか、白ばくれて物をいふ術をおぼえて吾が身に淋し。

職業とは阿諛媚笑のコケットか。いつの間にか眼に媚びを含めて溢るゝやうに笑ふ方法を吾れはおぼえたり。

わが職業は、やるせない忘惰の幾ときをわれに與へり。ココア飲めども、レモンテキー汲めども、友と連れてシネマゆけども癒されぬこの思ひ。

職業とは、べに、おしろい、眉墨の粧ひ。メリンスの帶幅廣に結びて黄いろなる半襟の衿もとを氣にする。わが幾時はかくて洗面所の鏡の前に流失する。

職業はわれに何を與へる？

サラリーを。（二十八圓二十錢也）倦怠を。神經衰弱を。職業はわれより何を奪へる？

青春！ 健康！ 純眞！ あゝ、わが職業生活。

農村青年共働學校の窓から

岡本利吉

農村青年共働學校の窓は、建築費を省く爲に、みなガラスにしてあります。障子では毎年洗ふて張り直す手間、その手間は何處の家庭でも、女性の役目の一とせられてゐます。そんな手間を省かうといふも一つ、また障子では雨戸を作らねばならぬから、二重に大工と建具師の手間がゐる、それをも省かうと、たゞ一のガラス窓にしました。ぐるりのベランダーの處も、全部がガラス戸だけであります。

日あたりのよい冬、ガラス越しに函根山にさし向ふて、農村青年共働學校の窓から、女性に呼びかけて見たい。

女性に呼びかける多くの男子には、何か性的の野心がありませう。純眞に互の幸福を鬪りあう意味での性的野心なら、當然すぎるほど當然でありますが、そうでない意味の野心、女性の幸福を問題にしないで、呼びかける御當人だけの性的享樂から、多くの男子は女性に呼びかけてゐます。

昨日開校したばかりの農村青年共働學校には、三十幾人かの血に燃えてる農村青年がゐます。そこには只だ一人の年増女がゐるのみで、人里を離れた「山の學校」――村の人はさう呼びます――男性ばかりで飯もたけば洗濯もしてゐます。彼等が女性に呼びかけるなら、或は不純な性的意味を持ちませう。それを恐れて私は、たゞ一人の女性の入學照會を、本年だけは斷りました。

しかし農村の眞の改造には、女性の覺醒がなにより大事であります。越後木崎村の農民組合では、デモンストレーションの先頭に、女性を立たした。演壇へも無理に女性を押しあげたところが、結果が非常に宜しかつたといふことです。始めは、はにかんだ若い女性、元來が、ずう／＼しく出來て多

勢の人前で、オペラバツクから鏡を取出し、男子を尻目にかけて、化粧直しをしようといふ、ずう〳〵しい女性、二度三度、デモンストレーションの先頭に立ち、演壇に押し上げられますと、忽ち勇敢な烈婦となり、男子がへコたれた後迄も組合の爲に活動し却つて崩れかけた男子を鼓舞したそうであります。消費者共働組合や、生産者共働組合に於ても、女性の心からの奮發が欲しいのであります。

女性に呼びかけて見たい。勇敢に女性へ呼びかけて見たい性的の野心からでなく、生活を合理化する公平な天秤の右側へ坐つて貰ふ爲に、女性に呼びかけて見たい。何等の反響がなく、流し目一つ頂戴することができないにしても。

消費者の共働組合が女性に呼びかけた聲は、善い反響を獲得しました。東京では西郊共働社の婦人部江東消費組合の婦人部など、確に成功した一例であります。最近私の手許に送られた高知新聞（十二月三十一日）から、左の記事を轉載しませう。

消費組合高知共働社では組合員増加につき組合員の主婦を中心とした家庭會を組織することとなつた。其趣意によると

一我國に今日まで種々な婦人團體が設立され、又されつゝありますが、直接家庭生活の重要なる一面である消費經濟については甚だ等閑に付せられ、眞面目に研究し之を改善して行かうと云つた會はあまり耳にしません。從來の婦人團體の多くは、有閑階級の社交的機關の程度に止まり、生活それ自體から消費經濟については、殆んど顧みられなかつた觀があります。私共は既にそこに着眼いたしまして高知共働社の設立と同時に高知共働社婦人部なるものを設立しました』（中略）消費組合運動に婦人が参加すると云ふことは、西洋では可成長い歴史のあることとでありまして、イギリスの消費組合では今から四十四年前の千八百八十三年初めてイギリス消費組合婦人會なるものが成立し、年々消費組合聯合會から四五千圓の寄附を受けて活動してゐますこの團體は婦人に消費組合思想を宣傳すると同時に婦人の解放運動をも起して居ります。これ位ですから各地の消費組合で代表者會を開くと、各家庭の代表者として出席する者の半數は婦人で占めてゐるのです。この傾向はフランスにも傳はり、漸次ヨーロッパの各國に普及しましたので、千九百二十一年には國際消費組合婦人會を開いたほどに進みました。

消息によりますと、高知共働社へ婦人部を設立する計畫が起ると、組合員の主婦達から、其促進を要求したそうであります。此等は消費組合共働社から女性へ呼びかけた反響の善い一例であります。私共は生産者と消費者と、双方の立場を一つに持つてゐる農村共働組合の鼓舞者として、農村青年共働學校のガラス窓からも、女性に呼びかけて見たいと思ひます。

都會なら、女性に呼びかけるに、何の手間もいりません。しかし農村では、中々それが困難であります。男性に呼びかけるさへ困難を感じてゐる我等は、どうすれば農村の女性に呼びかけることができるか。此點につき、私共は都會女性の厚い協力を借らねばならぬと思ひます。

我等が女性に呼びかけるのは、性的に無關係です、と同時に、我等自身の幸福よりも、人類的幸福に立脚してゐます。消費組合共働運動そのものが、利己的でなく、人類愛に立脚してゐるを、了解されてゐる筈ではあるが、世間で購買組合を商賈にする人々は、そうした意識を持たず、組合利己心を濃厚に持つてゐます。それにつき、簡單な觀察をさして頂きませう。

英國に於てロチデール開拓者達が、平等開拓店を成功した後、彼等の努力は消費共働組合の聯盟に向ひました。單純に彼等の努力史を讀む人は、其意味を悟らずに看過してしまひませう。彼等が消費共働組合の聯盟に向ふて努力したのは、彼等の掲げた本質的目的、即ち人類愛に基く合理的經濟組織の建設にあつたからであります。單獨の組合では、少數な組合に廉賣等の手近かな目的を見せてあげるだけで、人類愛を博く徹底さす役に立ちません。また、そうしたものは、永久に消費組合であつて、共働組合と名けるに適當しません。消費組合がロチデール開拓者の自稱したように共働組合となるには、大きな聯盟を作つて、生産事業を共働しなければならんのであります。そこに消費組合は共働組合の本質を得るのであります。我等の農村青年共働學校は、生産と消費を綜合した經濟の全範圍へまで共働組織を徹底せしめる闘士を養成しようとしますので、男子ばかりでなく、女性に呼びかける必要があります。しかし我等は其方法を知らない。

都會の女性諸君が、人類愛と社會改造の立場から自覺して下さるならば、それをするには共働組合に依らねばならぬことを發見されるであらう。女性は女性に呼びかけて諸君の姉

妹と友人を我等の方向へ送つて下さい。我等は皆さまに呼びかけ皆さまは故郷の姉妹と友人に呼びかけて下さるでせう。人類愛が徹底し、社會が合理化される日の夢を温いガラス窓から函根の山の空に描きながら、婦人運動社の皆さまにお願ひします。

村に生れ、村に在る少女諸君よ
榮ある未來の村々のために起て

凡そ女として小作人の家に生れたら、その娘盛りを工場の片隅で過されねばならぬものとあきらめねばならず、手作の農家に育つたらまづ高等小學を了へて家業を手傳ふことになるでせう、それで女學校へ上れるものは多少でも年貢がはいつてくるやうな家でないと望めないわけ、勿論こう大ざつぱに三段にわけて見ても今では餘程教育熱が高まつてゐるから隨分無理してまで上級の學校へ入れるやうになつてゐるし、學校を了へてからの職業も可成複雜になつて來た。

それにしてもそれ〴〵尋常、高等、女學校を出て、さてそれからの年頃の時期の過し方、その思ひは一樣にいぢらしくある。何しろ村は餘りに暗すぎる、街の華やかさとはてんで較べ物にならない、だから工場に在るものも、家にゐるものもまして女　校出などの村に育ち村に住む少女諸君の眼は殆んど、例外なしに街の方へと向けられてゐる。只にその眼だけに止まらず、その足はあらゆる機會をねらつて街の方へと運ばれる、新聞は、雜誌は、活動寫眞は、街から歸つた朋輩の話や便りやは、彼女達の憧れ心をそゝのかして止まない。

街の觸手、街の色彩はよし無一物であらうともその眼を樂ます足しになる、まして月一回の活動見物位はどう工面してもできる。どんな場末の裏店にでもどんなに苦勞してもいゝから街に住みたい、ならうことなら勤人に嫁ぎたいとは等しく彼女達の望む處である思へば、とても居たたまらぬ村の生活！　その身につけるもの、口にするもの、その住ふ我家の貧弱さ、野良仕事や發蠶やで男性と同じやうに立働いたその上で、炊事拭き掃き、育兒、縫い事洗い事などそれは全く農村の女性に課されたる餘計な仕事である、何かの集りがあつて出たいと思つても齋物のことで氣遅れがしたり、祭や祝事があつても却つて忙しく臺所に縛りつけられてしまふ。その上考へさせられるのは百姓家へ片付いたでは乾度時勢を解さぬ姑小姑の目が光つてゐて人知れず、苦しまねばならぬことだ。

村はそのやうに重苦しい村はそのやうに暗すぎる、彼女達が街に憧れ、街に住みたい思ふは一應も再應も否むわけには行かない。現象としての村の少女諸君の不遇さはまさにかやうな有樣である。それが若し製糸工場に追ひやられてゐる少女達だけの話になると更らに一層いぢらしい極みである。思へば製糸女工はその全部が村の小作人の娘であり、小作人の妻女はその全部が女工上りであると云つてもそう言ひ過ぎはしないのだ。

そこでこゝに私達村を憶ひ、村を生かさんことをこれ願ふ若者は襟を正し聲を張り上げて、みな樣私達はアナタ方の眼がみな一樣に街の方へと注がれてゐることについては充分お察しする。だがしかしこゝにその眼を上げて、この今の世の村をも街をも一樣に押し包む恐ろしく大きな魔の手、それを押し切らうとする恐ろしく早い時の流れをようくみつめて欲しいのです。

めざめたる女性の力こそ何物よりも力强いすべて新しいものを生み出すには、女性の共力なくしてはとても果し得るものでない。

村の少女諸君よ、どうか、その思ひを新たになさい、そして暗い村、みじめな農村婦人をどうすれば自ら救ふことができるかについて考へて欲しい、諸君の使命は餘りにも重い、さらば諸君よ、榮ある未來の村々のために!!

（御田悠兒）

無產階級と所謂「勤儉貯蓄」（中）

辰巳經世

三　勤儉貯蓄のお太皷の第一の音色

資本主義社會に於ける生產は、それが企業家（一般に所謂資本家）に依り、利潤の獲得を目的として行はれてゐるといふことを特徴とする。而してこの企業家なるものは、直接にはその投資を引き受くることに依り、間接は各種の金融機關を仲介として集めたるその資財を活用することに依り、一般に有產者階級の利害を代表してゐる。從つて企業家が獲得を目的としてゐる利潤の大小は、同時に一般有產者階級の利害に直接又は間接に影響するのである。如何にすればこの利潤を最大ならしめ得るかといふことは、だから、直接生產の管理經營の衝に當つてゐる企業家に取つてばかりでなく、意識的に或は無意識的に一切の有產者階級に取つても、最も重大なる關心事となるわけであり、所謂有產者的意識なるものは利潤を最大ならしめんとの慾求乃至努力を中軸として湧き起る特殊の觀念形態であると言つて差支ないことになる。

企業家の公式に從へば、〔生產結果〕—〔生產費〕＝〔利潤〕となる。卽ち彼らが生產事業に携はるに當つて、必ず生產費なる名目の下に一定の費用を消盡しなければならぬが、然し彼らはかくすることに依つて一定の生產結果を得るのであつて、この生產結果は一般に生產費を何程かの程度に超過するのを原則とし、その超過部分が卽ち利潤である。從つて一般に生產費に對して生產結果が可及的に大であるか、生產結果に對して生產費が可及的に小である場合に、この兩者の差額

であるところの利潤の額が可及的に大となる譯である。だから企業家に取つては、一面生産の結果が能ふ限り大であること、及び他面生産費が能ふ限り小であることが最も望ましいことであり、かくて彼らの全努力はこの兩方面に注がれる譯である。

生産の結果をより大ならしむるためには、生産手段の有する生産力をより多く發揮せしめること以外に方法はない。かくて原料の精撰、機械の改良、工場設備の完備等もその方法として考へられ得る然しこれらの方法を取る場合には、一方に於て生産の結果をより大にするといふ目的は達せられ得るが、他方に於てそのために生産費の膨脹を伴ふのを普通とする。かくては利潤の増大といふ肝心の目的が達せられない譯であるから、彼らは勢ひ他の方法に訴へて生産結果の増大を計ることになる。卽ち生産費に變化なくしてその結果のみがより大となるやうな方法の實行に努力する。而してかくの如き方法こそ、他の最も重要なる生産手段であるところの、勞働者をより多く、若くはより熱心に働かせて、その生産力をより多く發揮せしめることである。この要求と努力の巧みに變裝して現れたのが、『勤勉なれ――それはお前たちの身のためだ』といふ慈悲的、香の豐かなる言葉である。その言葉が遊んで贅澤に暮してゐる人々には向けられないで、働いてへト〳〵に成つてゐる人々を鼓舞するために用ひられる意味が明瞭になつて來る譯である。かくて賑かにたたかれてゐる『勤儉貯蓄』のお太鼓の第一の音色からは、『俺たちの利潤をより大にするために、お前たちの骨身を磨り削れ』といふ企業家たちの慈悲深い要求が、從つて又直接又は間接に、その利潤の分前に與つてゐるところの一般有産者階級の德高き敎說が私たちの耳に傳はつて來るのである。

序に近頃流行の言葉に『能率增進』とか、『科學的工場管理』とかいふのがある。凡ゆる手段を盡して無産階級を無智の霧の中に閉ぢ込めて置き、何を言つて聞かせても『ご尤も』と思はせるやうな封建的な支配的努力は、不幸にして今日の無産者には餘り適合しなくなつて來た。今日の無産者は、特に都市の組織勞働者は、そんな兒供欺しの胡魔化しに平氣で引つかかるべく餘りに賢明になつて來た。『他人が十時間働くものなら、お前は十一時間も十二時間も働け、それがお前の身のためだ、兎に角稼ぎに追ひつく貧乏はないのだから』と、親切至極な敎訓を一先づは眞實と信じて精を出して見るが、

借て一向に身のためとなつて酬ひて來ない。『働けど、働けどなほわがくらし、樂にならざりじつと手を見る』といふ、若くて逝つて熱血詩人の歌の意味の眞實さが、厭や應なしに沁々と判つて來る。『蔭日向なしに働け』といふ小學校時代に繰り返し詰め込まれた教訓にも拘らず、時には團體的なサボタージュをやる方が、眞實に自分たちの身のためであることを悟るやうになつて來た。『他人以上に働くこと』を奬められるに拘らず、就業時間短縮の要求は今や世界的の聲であり、凡ゆる勞働團體の最も重要なスローガンの一つである。

有產者の側でも、比較的時勢を見るに敏なる人々は、最早や單なる胡魔化し文句で、勞働者を勤勉ならしめることが不可能であるといふ、眞實の情勢を知ることができるやうになつて來た。かくて現狀以上の就業時間の延長なしに、若くは勞働團體の要求に應じて、若干時間を短縮しても、尙ほ彼らの利潤の額を大ならしめるための生產結果の增大を可能ならしめる方法の發見に腐心するに至つたのである。即ち量に依る勞働力の搾取に代へて質に依るそれの搾取を以てしやうとするに至つたのである。そして現に着々實行されつゝあるのが、工場を科學的に管理することに依つて、勞働能率の凡ゆる增進策を講ずることに依つて、勞働者をして怠惰であることを得ざらしめ、同一時間內に從來の幾倍もの生產力を發揮せしめやうとする方法である。恐らくは今後漸次、古いお太鼓の音を聞くことなく、能率增進のための、恐ろしく科學的（サイエンテイフイク）なラディオの噪音を耳にすることとであらう。（未完）

或る夜の詩

英美子

凡べてのものが寢しづまつた
眞夜中に
ひとり目覺めて聽く
このえたいの知れない物音は
一體、なになのか。

私は手をさしのべて
枕元のスタンドを捻り
遠國から來た奇鳥のやうに
四邊を見まはしたが
机上のフリーヂヤーもアネモネも、薔薇も
ひるまと何の變りもないのだ。

電車は絶え
近所で水を汲むポンプの音も聞えない
すべてが忘却の世界に流されてしまつた
この眞夜中の底に
恰度、から臼でも挽いてゐるやうな
漠然と、しかも重たく鋭く響いてくる
物音よ——

私は、起きやう、そして
うす蒼い、心のアンテナを
網のやうに投げかけ
この夜の音を、捕えねばならない

サヴエート・ロシアと婦人の地位

レーニン

サヴエート共和國の第二回の建國紀念祭にあたり、私はこの間における幾多の功績をふりかへり、資本主義××の意義と目的とを考察しよう。

ブルジョアジーとその手先とは、我々がデモクラシーに違反すると責める。これに對して、我々はサヴエート革命はデモクラシーの發展の深さに於ても廣さに於ても前古未曾有の刺戟を與へたと主張する。即ち勞働從事者並びに資本主義によつて抑壓されたる大衆にとつてのデモクラシー――從つて國民の壓倒的多數にとつてのデモクラシー、從つて又ブルジョア的デモクラシー(搾取者や、資本家や、金持ちやにとつてのデモクラシー)とは異つた社會主義的デモクラシーは勞働從事者にとつての發展に前古未曾有の刺戟を與へたと主張する。

どちらが正しいであらうか?

この問題を慎重に考へ、出來るだけ深くこれを研究することは、この二ケ年間の經驗を認識して、それを更に發展せしむるためにヨリよく準備することである。

婦人の地位は、特に明かにブルジョア的デモクラシーと社會主義的デモクラシーとの差異を示すものであり、又以上の問題に特に明かに答へてくれる。

ブルジョア的デモクラシー(即ち、土地、工場株式等々の私有が存在するところでは)においては、又デモクラシー的共和國においてさへも否、世界のどの國においても、世界のどの文明國においても、婦人の地位が完全に男子と同權であるところは絶對にない。フランス大革命(ブルジョアデモクラシーの革命)以來殆んど百五十年もたつてゐるのに未だかくの如くではないか。

ブルジョア的デモクラシーは言葉の上では自由といひ平等といふ。だが、實際においては女子はたつた一の自由、平等をも持つてはゐない。最も進歩せるブルジョア的デモクラシーにおいてさへも法律上男子と完全に平等にはなつてゐない。いつでも男子による後見及び抑壓の自由が與へられてゐるのだ。

ブルジョアデモクラシーは、自由と平等とについての言葉の上では美しい誇大の約束をするところの、そしてひゞきのいゝ合言葉のデモクラシーではあるが、實際においては、それは婦人の不自由と不平等、勞働從事者及び被搾取者の不自由と不平等とをかくしてゐる。

社會主義的デモクラシー或はサヴエートデモクラシーは美しいだけでそらぐ\しい言葉はこれを排撃する。そして、地主資本家或は飢餓に迫れる勞働者に餘剰穀物を法外に高く賣り付けて富んでゐる富農等の所謂『民主主義者』の僞善者とは容赦することなく闘爭する。

この卑劣なる虚言を撲滅せよ!! 被抑壓者と抑壓者との平等、被搾取者と搾取者との平等こんなものは存在しないし又存在し得ない。そして決して將來も存在しないであらう。男子の法律上の特權に對する婦人の自由、資本の桎梏からの勞働者の自由、勞働する農民の資本家地主商人からの自由が存在しないかぎりは眞の『自由』は存在し得ないし、又存在しないであらう。

うそつきと僞善者と馬鹿者と盲人、ブルジョ

アとその手先は自由一般平等一般デモクラシー一般を論じて國民を欺瞞するがいゝ。

我々は勞働者及び農民に告げる。これらのうそつき共の面皮をはいで、盲人の目を開けと。
備開す。

平等とは何の性と何の性との平等か？

何國民と何國民との平等か？

いかなる階級といかなる階級との平等か

自由とはいかなる桎梏から又いかなる階級からの自由か？ いかなる階級のための自由か？

この問題を提起することなしに、この問題を前面におしやることなしに、この問題を秘密にし、隱蔽することと闘爭することなしに、政治を論じ、デモクラシーを論じ、自由平等を論じ、社會主義を論ずるものあらば、それは勞働從事者の最惡の敵であり、羊の皮を冠た狼であり、勞働者と農民の最も憎むべき敵であり、地主、××及び資本家への奉仕者である。

サヴエート共和國は、この二ケ年の間に、しかもヨーロッパの最も後れた國において、婦人の解放と、その男性との同權のために、全世界の進歩せる、しかもデモクラシーを宣言せる『民主主義』共和國が百三十年もかゝつてなしとげ得なかつたことを、なしとげたのであつた。

啓蒙、文化、文明、自由——これらすべての大げさな言葉は、世界のすべての資本主義的ブルジョア的共和國においては、次のやうな未曾有の卑俗、卑賤にして殘忍なる婦人の不平等に關する法律と結びついてゐる。その婦人の不平等に關する法律とは、婚姻法及び離婚法に關する婚姻上の子供と婚姻外の子供との權利の不平等に關する、男子の特權に關する、女子の卑下と屈從とに關する法律である。

資本の桎梏、『神聖なる所有權』の桎梏、小ブルジョア的狹量、小所有者的我執の專制主義——これが、民主主義共和國が、これらの卑劣なる法律に手をふれることを妨げて來たのだ。

サヴエート共和國——勞働者及び農民の共和國——は、これらの法律をば一擧に掃蕩してしまつた。そして、ブルジョアのうそと僞善との建物から一つの石をとつて他の石にかへたのではない。

これらのうそを一掃せよ！ 抑壓される性が存在するかぎり、抑壓される階級が存在するかぎり、資本 式の私有權が存在するかぎり、飢餓に迫れる勞働者に餘剩穀物を賣つて富んでゐる富農が存在するかぎり、×××××××つての自由 平等を論ずるうそつきはこれを葬られねばならぬ。すべての人々のための自由、すべての人々のための平等ではなくて 抑壓者及び搾取者に對する闘爭である。抑壓し搾取する可能性を除去することが肝要なのだ！

我々の合言葉は次の如くである。

抑壓されたる性に自由と平等とを與へよ！ 勞働者及び勞働する農民に自由と平等とを與へよ！

抑壓者との闘爭、資本家との闘爭、投機者及び富農との闘爭へ!!

これこそは我々の闘爭スローガンであり、これこそは我々プロレタリアの眞理、資本に對する闘爭の眞理、自由平等一般、すべての人々にとつての自由平等をば美しげに僞善的に誇張して說く資本の世界を暴露する眞理である。

我々がこの僞瞞を暴露したが故に、我々が××的實行力を以つて抑壓者、資本家及び富農に對抗して被抑壓者及び勞働從事者のための自由平等を實現したが故に、——それ故にこそサヴエート權力は萬國の勞働者のかくも愛するところとはなつたのである。

この故にこそサヴエート聯邦第二回建國紀念祭にあたつて萬國の勞働大衆の同情、被抑壓者及び被搾取者の同情は我々に集るのである。

この故にこそ、サヴエート聯邦第二回建國紀念祭に際して飢餓と貧困とにも拘らず、又帝國主義者がサヴエートロシア共和國に加へる襲擊によつてひきおこされた幾多の困難にも拘らず、我々は我々の事業の正義を確信するものである。（一九一九年）

總選擧戰に於ける勞資陣營の對立

薄 茂 人

一、議會は何故解散されたか

第五十四議會は休會明けの劈頭、一月廿一日つひに解散され、今や雪を蹴立てゝ總選擧戰が鬪はれてゐる。

議會解散にあたり、諸政黨は卽日解散聲明書を發して國民の前に、それ〲の立場を訴ふるところがあつた。

無產政黨の側では、社民黨は「全民衆の生活權確立の大旗を揭げて總選擧に臨む事を重ねて力强く宣明する」といひ、日勞黨は「總選擧戰を通じて既成政黨の一切の罪惡を餘すところなく暴露し全民衆を動員して、民衆の利害と自由のため果敢に鬪爭せんことを誓ふものである」と言ひ、勞農黨は「全日本の勞働者農民を代表し、あくまでも資本家地主の政黨と戰はんとするものである」と、ブルジョア政黨との血戰のために、鬪志熖々と燃ゆる慨がある。

しかし、議會は何故解散されたか。

無產政黨側の同一の聲明書によると、勞農黨は「全勞働者農民の憤激は遂に第五十四議會を解散せしめた」といひ、日勞黨は「全民衆の彈劾の前に議會は遂ひに解散された」とある。

全勞働者農民の憤激と言ひ、全民衆の彈劾と言ふも、結局同一の事態を指すものではあるが、果して議會は、斯く國民の憤激と、彈劾によつて解散されたものであらうか。否。決して左樣ではない。

成る程、憤激した勞働者が上野公園で解散のビラを撒いたり、農民の彈劾的叫びをあげたことは確かだが、しかし、それはブルジョア政黨を脅やかし、政府を戰りつせしめ、議會を解散せしめるだけの力あるものではなかつたことも確だ。

然らば、議會は何故解散されたか。

ブルジョア陣營の、唯一の反對黨の支柱民政黨と、政府黨卽ち政友會の解散聲明書によると、民政黨は言ふ。

「政友會は國民の生活を託する經濟界に燒打をかけ、その混亂に乘じて內閣を奪取した。爾來彼等の國家の公器に對する恰も私黨の營利機關たるが如し」

いかにも昨年の金融恐慌の放火犯は、政友會には相違ないところではある。しからば民政黨は、何故當時に於て議會を解散しなかつたのか。何故放火犯の政友會などと政權たらひ廻はしの陰謀をめぐらし、政友會に政權を委ねたのか。私黨

の營利關係たるが如くんば、何故前議會で政友會内閣を彈劾しなかつたのか。

次いで政府と政府黨政友會の言ふところによれば、「反對黨は故らに之れに反對し多數をたのみ、わが政策を阻止せんとするの狀勢歴然たるものあり」即ち民政黨の不信任案の提出に藉口して、之れを解散の理由とするかの如くである。

だが、政府と政府黨政友會の、議會解散の底意を見拔いたればこそ、民政黨は不信任案を叩きつけたわけで、どちらも解散を覺悟してのことである。

しからば何故覺悟したか。之れを確めることによつて、議會は何故解散されたかの表題の理由がわかる。

それは、勞働者農民の憤激、彈劾にあるのではない。政友會内閣が、今さら、私黨の營利機關なるが爲めにではない。民政黨が、多數をたのんで、政府の政策を阻止せんとしたからではない。

議員の任期は、泣いても笑つても今期會で滿期となり、どうせ總選擧を行はねばならぬのだから、彼等は總選擧戰にのぞむためには、國民大衆を僞瞞するために、一歩でも、有利な地歩、一段でも優位な立場を築かねばならぬ。

此の一歩の爭ひ、一段のせり合ひが、彼等をして議會解散――尤もらしい政策の爭點によつてであるかの如くに――手段を選ましめたのである。それは當然すぎるほど當然な手段ではある。

二、ブルジョア政黨の政策

だからして、彼等は、民衆を僞瞞するところの、おびたゞしき政策をふりかざして議會にのぞみ、同時に總選擧戰にのぞみつゝある。

試みにブルジョア諸政黨の、高らかに揭ぐるところの主たる政策を列記してみる。

政友會

一、地租委讓
一、自作農の維持創設
一、民有造林促進、漁村振興、産業統計改善、重要工業助成、肥料改善、蠶糸市價維持その他
一、交通、通信機關の改善、鐵道の普及電信の改良、航空事業の補助
一、治水港灣道路の修繕
一、拓殖省の設置移植民の保護奬勵
一、減債基金の特別會計負擔

民政黨

一、義務教育費の國庫全額負擔
一、國際貸借の改善
一、金解禁の實現
一、電力統制その他公共事業の統制
一、米價並に繭價の調節、農村漁村經濟改善に關する諸施設
一、自作農の維持創設
一、小作問題の解決
一、日本銀行、特殊銀行その他の金融機關の整備改善
一、中小商工業者のための金融機關の設置

革新黨

財界の回復整理促進のために左の如き

政策の實施を期して居る

一、地租委讓
一、義務教育費全額國庫負擔
一、中央財政の整理緊縮
一、累進的課税の方法による直税の增收間接税の負擔輕減、生活必需品の課税全廢
一、小作法の制定耕作權の確立

實業同志會

その財經策の旗印は次の通り

一、行政財政の整理
一、税制の根本的整理
一、會計檢査院の權限擴張
一、鐵道會計の獨立會計廢止
一、剩餘金の全額の減債基金充當
一、保護關税の廢止、農村の工業化、官業の廢止

政策の一々についての批判はともあれこれらを一括して、大まかに言ふならば第一に、政友、民政と革新、實同は、大ブルジョア政黨と小ブルジョア政黨を代表することが明白である。大ブルジョア政黨は、重要工業助成、蠶糸市價維持、電力統制、日銀、特殊銀行等の整備改善などといふ、大ブルジョアの保護、助成をめざし、小ブルジョア黨は、財政整理、税制の改善などといふ小ブルジョアの擁護、改善を目標としてゐるからである。第二、大ブルジョア黨の政友、民政は、それ〲の代表するところの大ブルジョアの利害によつて、兩黨の政策も亦、確然と相違するものがある。

政友會は、所謂積極政策、民政黨は消極政策である。例へば政友會は植民地政策によつて、資本家を保護すべく拓殖省設置、移民奬勵策を執り、民政黨は金融機關の整備改善、これに必然に附隨するところの資本家の事業の整備改善を唱ふるが如きはそれである。

第三、に小ブルジョア黨の革新、實同にも、それ〲の代表する小ブルジョア層——小資本家、商人、俸給者、農民等——の利害によつて、政友、民政ほどの明確な對立はないにしても、その政策の上に、相異るものがある。

農村に地盤を置くところの革新黨は、地租移讓、小作法制定、耕作權確立といふ、小農民の要求をとりあげ、都市に地盤を置くところの實同會は、行政、財政税制の根本的整理といふ、都市小ブルジョアの主たる要求を強く主張してゐる。

殊に、大ブルジョア政黨の、官僚的帝國主義支配に對しては、實同會は、より急進的であり、戰鬪的である。

第四に、いづれの政黨も、勞働者小農民の要求に對しては、多くは耳を覆ひ眼を閉じ、口を緘して三猿を極め込んでゐる。

國民の主導勢力なる廿五歳以下十八歳の男女は、選擧權の行使さへも出來ないではないか。言論、集會、結社の自由は彼等には暴壓法令と彈壓的取締を以て縛られてゐるではないか。賃銀は容謝なく減らされ、職業は勝手に取りあげられ、彼等は生活權を奪はれてゐるではないか農民は、耕作權を奪取されつゝある、しかもブルジョア政黨は、地主と資本家の

ために、自作農創定に名を借りて、彼等を保護することに憂き身をやつしてゐるではないか。

第五に、それにも増して、ひどいことは、婦人の存在をすら否定するかの如きブルジョア諸政黨の態度である。

婦人參政權然り、母性保護法然り、その他婦人の奴隷的鐵鎖を解放するところの、婦人の要求に對しては、彼等の政策は、不都合にも片鱗をも示さず、一言も語らず、冷然として婦人の行く手に、鐵門を堅くおろしてゐる。

三、無產政黨の選擧協定の弱點

ブルジョア政黨が、かゝる政策をかゝげて、總選擧戰にのぞみつゝあるとき、民衆の利害と自由のために、全民衆の生活權確立のために、又勞働者、農民のためにあくまでも資本家、地主の政黨と戰はんと言ふ、無產政黨は、いかにして戰はんとはするか。

彼等は選擧協定――その一つの地盤協定を、曲りなりにも成功せしめたのである。

昨年の府縣議選擧に於て、成し得なかつたものを、成し遂げたのである。

それは不完全ではある、しかし、ブルジョアジーとの鬪爭のために、無產階級陣營の、政黨、組合の力の結合、鬪爭力の統一を絕對の必要とするとき、いかやうなものにてもあれ、協定の成功は、わが無產階級運動にとつて祝福すべきではある。

少くも、發展の方向が、結合、統一に向つて、しかも急速度に動き出したことは否れない。

しかし、なほ其れにもかゝはらず、總選擧戰に際して、あくまでも資本家、地主の政黨と戰はんとする爲めに、多大の遺憾を禁じ得ないは、ブルジョア政黨の高らかに揭ぐる政策に對して、無產諸政黨の統一的政策の協定にまですゝめられなかつたことである。

選擧戰の鬪爭を統一し、目標を集中するところの、共通の政策、いはゆるスローガンの下に、帝國主義ブルジョアジーとの抗戰にまで、選擧戰を展開し得なかつたは、遺憾此の上もない。

そして、それは、無產諸政黨の、選擧戰に於ける決定的弱點でなければならぬ

興味ある郵便局長殺害事件

(附) 陪審裁判とはどんなものか!?

開地敏子

時は昭和二年の一月十一日午前三時五十分頃の事、靜岡縣富士郡上井出村上井出郵便局長井出嘉四郎(四十三歳)は、自宅裏手の倉庫前で夜警中何者にか殺害されて居た。

×

そして此事件は富士山麓郵便局長殺害事件として、當時各新聞紙に報ぜられ、加害者に對しては昭和二年十一月十一日靜岡地方裁判所刑事部裁判長判事中里龍陪席判事篠原治朗、滕井經雄氏係り判決言渡しがあつたのであるが、その判決に不服の申立をなし控訴した爲に目下東京控訴院で更に事實審理を行ふことになつてゐる。

扨て此殺害事件が何故興味の中心であらうかと云ふと、檢事の求刑と、判事の判決に大きな量刑の差を生じたことで、いづれが事實の眞相を物語るものであらうかと、實は司法記者仲間で、近頃の珍らしい裁判として公判の日を大いに期待してゐる故である。

今當時新聞紙に報ぜられた事件の內容を略記すると次の通りである。

×

被害者井出嘉四郎は相當の資產を有し上井出村三等郵便局長である傍ら同村の村會議員を兼ね、何不自由のない生活をしてゐたのである。

時に齢は不惑の四十前後、このまゝ平穩に過せば事もなかつたのであるが、大正十三年夏頃から、フト人妻の前島ちかと私通し、遂にちかを夫から奪ひ取つて妾として圍ひ、夜となく晝となく寵愛したところから、妻の井出よねは幾度か夫を戒め、惡夢から醒める樣忠告したが、嘉四郎は妻の言葉を聞き入れず、屢々ちかの許に出入し、妻を反り見ない狀態に妻のよねはこのまゝに打ち捨てゝ置けば夫は遂に家產を蕩盡し、やがては自分も秋の扇と捨てられる日のある事を思つて嫉妬と心痛の餘り夫を殺害仕樣と計畫し事務員の井出德一に向ひ、

『お前サンが夫嘉四郎を殺して吳れたなら御禮は望み次第にあげるが』と相談を持ちかけて夫殺害を彼に依賴した。

×

此話があつてから德一は嘉四郎を殺害するには先づ其自宅附近に放火し、そのドサクサまぎれに相手を撲殺し證據を湮滅せんと計り、大正十五年十一月十四日

と十二月十五日の二回に亘つて、嘉四郎の家の裏手納屋口に放火したが其都度同人の妻を見るや心が弱つて撲殺を決行することが出來ず逃走し目的を達することが出來なかつた。

併しそんな計畫があるとは知らぬ被害者の嘉四郎は、かく度々放火されるのは妾ちかの前夫が、妻を奪はれた怨みから自分の一家に怨みを抱き、一家を焚殺仕様とするのだらうと邪推して、犯人を逮捕する目的で密かに前記自宅裏手で張番をする様になつた。

それを承知してゐる妻のよねは昭和二年一月十日の夕刻自宅に遊びに來合せた德一に向ひ

『主人嘉四郎は明晩も夜曉頃自宅裏手土藏西側の庇下に張り番をするから、此機會を逸せず殺害して呉れよ』と暗示したので德一は其言葉に從ひ、翌日十一日の午前三時三十分頃前記の場所で嘉四郎を發見するや、豫て用意して居た鋒を振つて背部其他を斬りつけ、同人の左肩胛下部脊柱に接し、長さ七仙米、幅二仙米、深さ第七肋間を突進し心臓に達する創傷一ケ所外八創を蒙らしめて、即死せしめ德一は何食はぬ顔で近所の河で手を洗ひ自宅に歸つて蒲團を被つて寢て居たのであつた。

×

かくて殺人事件ありとの報告を受けた所轄大宮警察署では時を移さず現場に馳せ附けて型の如く檢證したが、犯人は財物を得んとする强竊盜の所爲ではなく、何等か局長に對して怨恨を抱くものらしいとの目星をつけ署員總出で大活動を始めたが、現場の樣子は、犯人は兇行の際同家南側路地を逃走したらしく、路地に横たはつてゐる四寸角位の『コンクリート』で作つた用水桶に躓いた跡があり、同家中庭に於て被害者嘉四郎と格鬪したらしく且つ四圍の狀況より見ると、犯人は餘り遠方の者でなく或は村內の者ではあるまいかと思はるゝ節があるので老幼を除いて村內の男子を漏なく身體檢査した處同郵便局の事務員井出德一（當二十三年）の右足の踵に二ケ所の擦過傷と右手の掌と小指に切傷のあるのを發見し詰問すると、德一は顔面蒼白となり、身を震はし擧動頗る怪むに足る樣子なので、直ちに大宮警察署に拘引取調べると自分は井出局長に恨みがあつて確に殺害したものであるが、共犯者などは一切なく單獨に殺害したものであると自白したが、其後再三申立を變更し、最後に實は局長の妻よねより殺害を依頼され、三百圓の郵便貯金通帳を局長殺害の報酬として貰ひ受けたと申立てたのである。

×

そして或新聞紙は此事件の發端は、嘉四郎の妾狂ひに自棄のよねが二十二三も年下の前記井出德一と私通し、既に妊娠三ケ月の身重となつたので、不義を夫に知られることを恐れ、大膽にも情夫井出德一を教唆して、之を殺害せしめたるものなりと附記したのである。

×

以上は事件內容のあらましであるが、斯くて被告井出德一と井出よねは、殺人罪及殺人教唆罪として、靜岡地方裁判所

の公判に附せられることになつた。

　そして此両人はどんな法律上の制裁を受けたであらうか？

　検事は被告井出徳一は村の模範青年にして非常な親孝行者であると論告し情狀を酌量して徳一に對し懲役十五年、被告よねに對し尊族者教唆罪として無期懲役を求刑したのである。

×

　それに對して辯護人はよねは教唆者にあらずと極力反證をあげて辯護した結果恐ろしく反對の判決が下された。

　即ち被告井出徳一が單獨で局長を殺害したものとして、無期懲役、よねが證據不充分で無罪と云ふのである。

　検事から無期を求刑された夫殺し教唆者のよねが無罪で、十五年であつた井出徳一が、終生獄屋につながれることになつて仕舞つた、大抵の裁判では検事と判事の量刑がいつも似たり寄つたりのものであるのに、木の葉が沈んで、石が流れる様な結果になつて來た。

　之は果して木の葉が沈んで、石が流れるのであらうか、石と見えたのは木の葉であつて、木の葉と見えたのが石であつたのか、

　十五年の懲役から無期の重刑を科せられた徳一は勿論右の第一審を不服として東京控訴院へ控訴した、その公判が二月の末頃、東京控訴院で開廷される、東京控訴院で果してどの様な判決が下されるであらうか？

　第一審の判決が審理の結果覆されないものでもないし、そのまゝ是認されないとは限らない。

　検事と判事の量刑にあまり大差があり過ぎる處に此裁判の面白味がある。

　我國の裁判制度は三審制度でモウ一度控訴院の判決に不服の場合には、大審院へ上告が出來るのであるから、此事件は大審院までゆく可能性を充分以て居るらしい。

　我國でも昭和三年十月から陪審法が施行されることになつて、放火、殺人と云ふ様な法律の條節文に照して其刑が死刑、無期の懲役、若しくは禁錮に該る事件は、勿論陪審に附せられることになつてゐるのであるから、此事件などは勿論陪審裁判を適用されるべき事件の內容である。

　その陪審裁判とはどの様なものであらうか、これは我國では始めての試みで、近頃やかましい司法上の問題であるが、法律問題に關係の薄い一般人、殊に女性は陪審制度と云ふ様なものに、何の興味をも起されないであらうと考へられるが故に、わかり易い法律常識を養成する意味で、ザツト外廓だけ陪審制度に就いて書いて置き度いと思ふのは、老婆心ばかりではない、婦人が参政權を切望する様に陪審員の一席を是非とも婦人が占める日が一日もはやく來なければ、婦人の權利が完全に擁護されるとは云へないと思ふ。

　陪審制度と云ふことを一口に云ふと、「司法上に民意を尊重すると云ふことで」我國の憲法は立憲政治の本義として、國權の作用を立法、司法、行政の三權分立とし立法に付いては議會の協贊を必要とし、議員は民意によつて選出された代議

士であるから先づ國民の意思を代表したものと見るべきで、行政に付いては自治制度を認め、立法行政に國民は參與するの權利を得てゐるが、司法上には何等國民の意思を代表する機關がなかつた。

その司法上に正しき民意を加味し、稍もすれば理性に捉はれ易い裁判官に、人間味ある温情をさし加へ、法律上から云つても、人情味から云つても、合理合法的な裁判を、國民の信頼と、正義心と、熱情に訴へて審理仕樣と云ふのが、陪審法の本義である。我國の陪審法では刑事々件の重いもののみを陪審に附し、軽いものは請求によつて陪審裁判を行ふことになつてゐる、其他陪審に付することの出來ない事件や、いろいろ委しい規則(陪審法)があるが、そんなことは研究したい人だけに讓り、陪審員にはどんな人がなるのかと云ふと、普通の場合は、十二人の陪審員が判檢事と倶に、裁判に參與することになるので、其資格は何も法律を知らなくても、左の四つの資格さへ備へて居れば陪審員になれるのである。

1、日本臣民で三十歳以上の男子、
2、引續き二年以上同じ市町村内に住居してゐること
3、引續き二年以上直接國税三圓以上納めてゐること
4、讀み書きが出來ること

と云ふ簡單な條件であるが、此簡單な條件中にも、やつぱり因襲の殻はぬぎ切らないものと見えて、女子を除外してゐるのは誠に遺憾な次第である。

何故女子を陪審員中から除外したか其理由を私は解くことが出來ない、苟しくも有罪無罪の瀬戸際に立つ人生浮沈のその境界線を男子に而已任して置くことは實に不公平であつて、デリケートな神經を持つ婦人の評議が、どんな眞相を物語らないものでもない、婦人を知る者は婦人である、婦人の一言一句の尊重すべきことは、婦人の犯罪事實に就いては更に重大な意義を持つべきであらう。

此の郵便局長殺害事件に就いても、妻よねの心理狀態に就いては、婦人の助言を俟つべきことは大である。だから婦人陪審制度設置運動の如きも、婦人の參政權、婦人公民權、結社權、婦人辯護士制度設置運動と倶に平衡してなされねばならぬ婦人運動の一つであることを私は確信して疑はないのである。

月例讀者會は今月だけ
——二月廿五日
夕六時より

いつも第二日曜日ですが、今月だけ特に總選擧の後にのばします。當夜は實戰の渦中に身を投じて闘かつて來られた人々にも來て貰つて最初の普選がどんな工合に行はれたか、いろ〳〵聞かせて頂くことにしました。これからの婦人の政治運動がどう進まねばならないか、此の際御一緒に考へたいものです。

(職業婦人社事務所に於て)

堀切だより

平田のぶ

◇買出しの一隊

「おかみさんよ、買出しに行かない?」
「あゝ待つてゝよ……」

大工さん、工夫さん、職工さん、おでんやさん達のおかみさんを大きな聲で狩り出して、五丁ほど先の、八百屋へ繰出すのです。私の背中にも何時だつて坊やがくゝりつけられてゐますが、これ等の連中もみんな背中か、手か或は、その兩方に生きた携帶品のないことはありません。大小とりまぜたこの一聯隊が、かごや風呂敷を持つて繰出す處は、一寸壯觀でありますよ。だから、その途中にある二軒の八百屋では、

「いらつしやい」
「こんちは……」

などと、よけいな敬意を表します。然し、その敬意にごまかされて高い粗末な大根を買はされるほど、此連中は、おめでたくはありません。途々はやかましいものです。

「何處の嫁入仕度は、そりやたいしたものでしたよ。私はみたんですが帶一筋丈でも、二百圓とか二千圓とかしたんですつてさ……」

とおでんやのおかみさんが自慢する(彼女達のブルジョア讃仰はたいしたものです見た丈でも大いに自慢になるのです)金庫職工のおかみさんは、日曜日に、國技館の三段返しをみた話を初めます。髪のいゝ大工さんのおかみさんは、髪結の品定めをやります。それは中々賑かなものです。然し、不幸にして、そんな事に興味のない私は、自然話の埒外に放出されさうです。淋しがりの、話しずきの私には、それが辛いのです。子供の頃、年上の女の友達に遊んでもらひたさに母の小切をだまつて持ち出す智慧を持つてゐた私は、知らず〳〵のうちに、此おかみさん達に氣に入る話しの種と話術とを用意する事に腐心してゐました。

「どこの店で買つたら、安かつた」
「どこの石鹸はよくおちた」
「薪を、こんなにして使つたら倍もつた」
「ふとんを乾したら、夜賤つたかだつた」
「子供の風邪が又はやり出したと新聞に出てゐた」
こんな風に家庭經濟、衛生、育兒など。然し繰返していつておきますが、私は初めつから、別に、社會指導だの、婦人啓蒙だのといふ意識を持つて計畫的にやつた事ではないのです結果からみると、或は、少しばかりそんなようになつたとしても、これは只、私の淋しがりが、自然に、私をあの人達の仲間にさせたのであります。そして私の興味が、自然と、あの人達の興味を轉換させたのであります。

うちの近所の子供達は、着物をよごしたといつてはビシヤ〳〵叩かれます。泣くといつては、「こんチキショウ」と叱られます。そんな事をみるのは、子供好の私の心を暗くし悩ましますことに、さういふ結果として、子供達が、うそつきになり、しぶとくなり、底意地悪くなるのをみると、とても辛くて仕方がなくなります。でも、何處か弱氣の私には、「叱らぬ方がいゝ」など、とても面とむかつていへないのです。それに、彼女達の忙がしい生活を知つてる私には、叱るのだつて無理はないとも思へるのです。私だつて、たつた一人の恵坊を、何もわからぬ二つの恵坊を、原稿がかけぬと叱りつけたり泣くといつては、おどしたりする事があるのですもの。

「何とかいふ偉い人の話しですね。あんまり子供を叱ると、子供が不良少年になるんですつて。うちの恵坊なんかも、あんまり私が叱るから、不良少年にでもなつてくれねばいゝがと、時々私は心配になりますよ……」

私は買出しの途中私の感想や考へをこんな風に持ち出すのであります。近頃は、私の外出が多いので、隊をくんで繰出すことは少なくなりました。そして、彼女達が、その途中何を話題にしてゐるか知りません。

「みんなが買出しに行く時間をはぶく僞め、代る〳〵誰かゞ行くようにしたらいゝわね」

と奥氏は、私のこの話しを聞いて意見をいひました。

私も理想として尤もだと思ひます。然し、うつかり、この邊のおかみさん達の生活や心配をしらずに、そんな事初めると大變な事になります。ボツ〳〵と將來のことにしておきませう。徹遠されたら、大變ですからね。

◇組合取次

「この米三圓二十錢ですよ。……」

私は、ふくろから米をとり出して掌にのせて目チャ〱のおかみさんにみせました。彼女は、洗濯の手をやめて、それを手にとつてみながら、

「三圓二十錢？　一斗がですか？」

側には江東消費組合の田中さんが汗をふき乍ら、

「割にいゝ米だと、會員の方達も仰有つて下さいますよ…」

などと和して下さいました。

夕方みなが井戸端に集ふ頃、私も米とぎに行きます。そして

「これ三圓二十錢の米よ」

を又初めます。煮立てのぬく〱のごはんで、お結びを作つて、

「まあ一寸食べてごらん。此通りおいしいことよ……」

など宣傳もやります。

「けいちやんおばちやんお茶のみにおいでと……」

大工さんのかつちやんが聲をかけてくれますと、私は原稿のペンをおいて出かけます。もう近所のおかみさん連四五人も集つて居ります。白菜の漬物、大根のにしめでみんな飲みます。

「このお醤油山サ？　いくら？　八十五錢！　おゝ高いことお金持は違つたものね。私は同じ山サの壜詰め七十八錢よ空壜六錢で正味は七十二錢、一升十三錢違ふのよ……」

こゝらで目が出るなら、組合の説明もやります。然し、うつかり勧誘しようものなら、

「手數料をもらうのだらふ」

とか

「何か爲めにするんだなア」

と痛くない腹をさぐられねばなりません。その邪推も決して無理はないのです。彼女達は、今迄、あまりにも、だまされすぎ、爲めにされ過ぎた經驗を持つてゐますから。人を見て盗人と思ふのも生活から生まれた教訓なんだから、彼女達の罪ではありません。

職工の若いおかみさんのきな粉の御馳走は私に組合の砂糖について話をする機會を作つてくれますし、惠坊のいたずらは、警部のおくさんに話しかける緒を見出させてくれます。

とり屋の子供の腰にはさんであげた古ハンカチ一枚が縁になつて、組合のもちの註文もとり次ぎました。たまにゆつくりした時は、私のうちでもお茶に招いて組合の六十五錢醤油や二十七錢の養老の試食をしたり、猪口に一杯づゝ持つて歸つてもらつたりします。

かうして、今は、大分お取次をしてゐます。まだ、組合員になる迄にはなつてゐませんが、私のように、一寸した事にも、ピクツトするような神經を持ち、勸誘などいふ事は、心の底から嫌ひだし宣傳なども、性に合はない質ですが、これは、又どうした事か、進んでやつております。一つは、「うちのような大人數は、おかげで隨分助かります」とよろこばれる事も嬉しいのでせうし、組合の廣瀬さんや田中さん達のあの眞面目な謙讓なお氣持が、知らず／＼の間におかみさん達にいゝ影響を及ぼして行く事も嬉しいのでせう

◇配當の處分

此一月の暮れには、購賣高に對して、いくらかの配當がもらへる筈です。私の買上高は、みんなのを取次だために、三百圓近くなりますから、四五圓の配當にありつけると、もう暮から、皮算用して樂しんで居ります。此金はほんとに尊いのですから、どうか生かして使ひ度い。何かおかみさん達と一緒に會でも初めるもとにしようか、子供の會（これは日曜日にうちで時々やつて居ります）の方へ廻さうかなどと。奥氏にも相談持ちかけて考へてもらつて居ります。

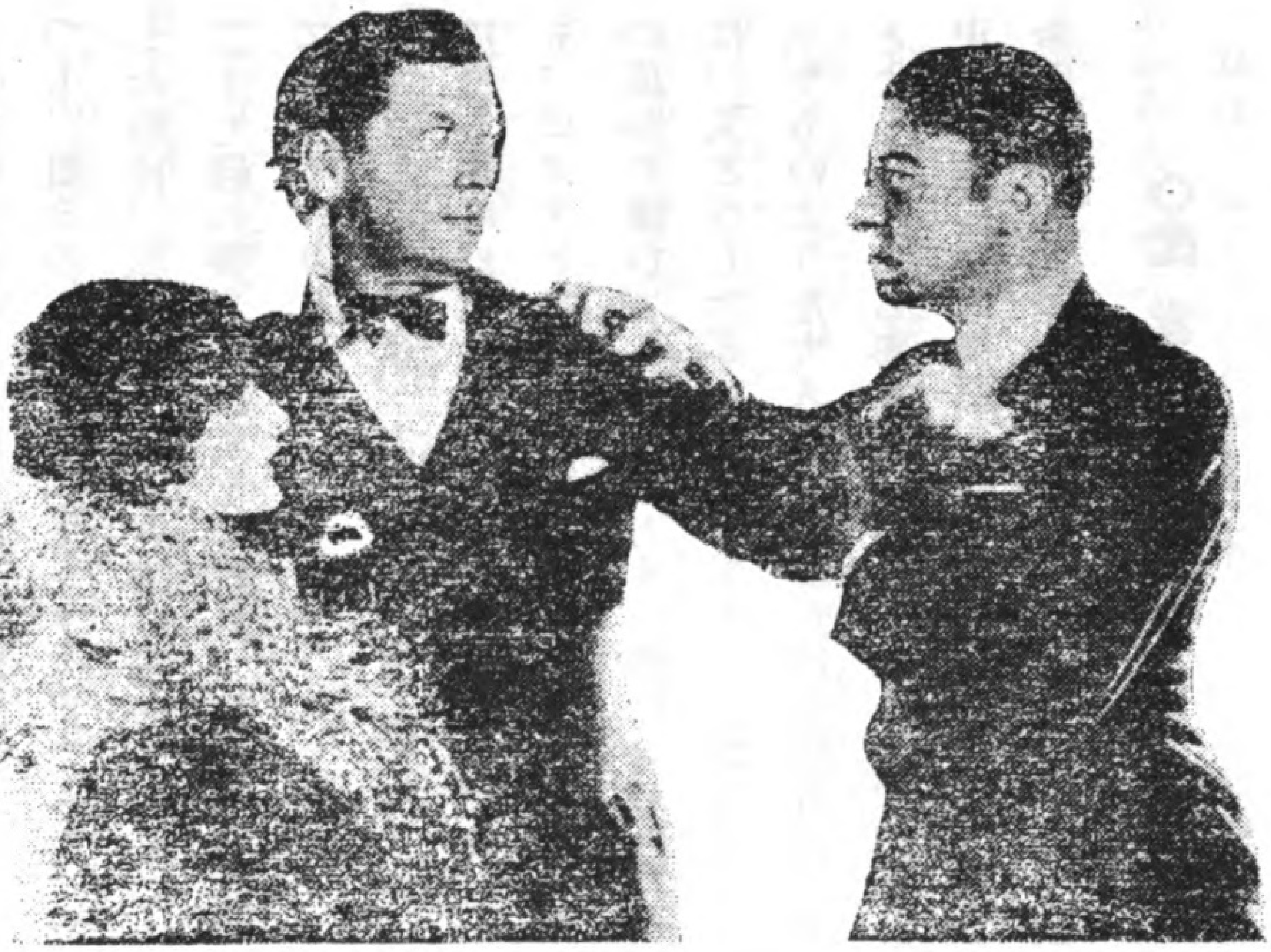
◇支部

こゝは江東から二里近くもありますから、配達は中々無理だと思ひます、初めた人こそ、無理でも押切れますが、代が變り人が變ると、決して無理が何時迄もきくものではありませんし、その爲めに、だん／＼仕事の發達の上にも支障が出て來ると思ひます。早く支部でも作れるようになるといゝと思ひますが、凡ての會は、無理にこしらへると永續きがしませんが、生ませる事だと思ひます。生ませる爲めの種まきや、地ごしらへをみんなで、セツセとやり度いと思ひます。

映畫

暗黒街

―梗概―



丁度六年ばかり前、パラマウントが『キックイン』と云ふ映畫を見せた事があつた。改心した前科者や泥棒に對する社會の壓迫と、世に見棄てられた前科者同志の相互扶助、並びに權力階級に對する雄々しい反抗を主題とした充實と感激に溢るゝ名畫であつた。そのパラマウントが、長く不遇なりし病監督ヨセフ、スタンバーグに指揮せしめて、ベン、ヘクトの原作をロバート、リーに脚色せしめ、バート、グレノンに撮影させた『暗黒街』を公開した。これも泥棒の物語。然し是では觀客を充實させやうとはしない。反對に、世に見棄てられし者の心の奥に潛む、温い愛と、惡人の正義と云ふものを力說してゐる。それだけだ、と云へば簡單だが、此の映畫に接した者は必ず深い感激を其の胸に刻みつけるに違ひない

敏捷で力自慢の泥棒ブルは、或る夜、仕事の歸りに連れ戾つた醉つ拂ひのロールスに仕事口を與へてやる。ロールスは學問はあつたが酒で身を過つた男である。

ロールスは酒を斷つて一心に働く事になつた。すると或る夜バックと云つて、ブルとは商賣敵の泥棒がロールスを恥づかしめた。ロールスは辛抱したが、ブルが見兼れて喧嘩を買つて出る。彼はロールスや、情婦を遠ざけてから、バックの前を往き戾りしながら、指と指で金貨を一枚捻ぢ曲げて見せる。『俺の力は、ざつとこんなものさ』と云ひたげに、ワッハッハッと笑つて悠然と引き上げた。(映畫では、此處が一番光つてゐる。何と云ふ胸のすくやうな快い氣分の横溢した事よ。)

以來、ロールスはブルの隱れ家に棲んで、一心に本を讀める境遇になつた。心の中ではブルの俠氣に感謝しながら、何時かは其の恩に酬ひやうと志してゐる。

さて、ブルの情婦はフエザースと云ふ。ブルは眼に入れてもいゝ位可愛がつてゐるものゝ、フエザースは矢張り普通の女であつた。頸飾が

欲しいと云ふ。ブルは其の場はいゝ加減に誤魔化しておいて、直ぐ其の頸飾りを盗りに行つた勿論、一人で、生命懸けで。

仕事は成功した。罪はロールスの計らひで巧くビックに塗りつけた。これで雪辱したと云ふもの、腹も癒へて三人共嬉しい夜を迎へた。其の夜は、どん底に住む、泥棒連中の親睦會が行はれると云ふので、三人はやがて出かけて行つた。

バックは、かれ〴〵フエザースに思ひを寄せてゐた。それでブルが泥醉して眠つてゐる隙にフエザースに近づいて挑んでみた。女は應じない。腕づくで、男の意地を押し通さうとすると、女も盛んに反抗する。爭つてゐる所へ、覺めたブルがやつて來た。此の様子を見て眼をむいてバックに迫つて行く。バックは逃げ出す。ブルは追つかける。深夜のシカゴの町……逃げる男追ふ男……銃聲。バックは殺されて了つた。

裁判でバックは死刑の宣告された。彼は從容として宣告を受けた。が、獄に在つては情婦の事が氣になつて堪らない。ひよつとすると、ロールスと……と考へると、迚もジッとして居れなくなつて、死刑執行前一時間と云ふ瀬戸際に脱獄する。一方ロールスは、恩に酬ひるは此の時と、フエザースやブルの一味と、ブル救助の計を立てゝゐた。其の計は破れた。彼も、彼女も、ブルの隠れ家へ戻つてみる……

ブルは無事に戻つてみたものの、警官は既に隠れ家を包囲して機關銃で攻め立て始めたので、死力を盡して奮戰しなければならなかつた其處へ、フエザースが歸つて來る。傷いてロールスも戻つて來た。『矢張り貴樣等は……』と嫉妬の怒に燃えて責めやうとすると、二人はブルに其の宪を告げて、今日の努力を語り、晝餠に歸した仔細を述べた。ブルの心は解ける。しかし、今は遁ろべき時ではないと覺つて、ブルは二人を裏口から落してやり、自分は自ら降つて警官に捕はれた。

『逃げたつて一時間の生命ぢやないか。何故逃げた?』問はれたブルは警官に向つて落ちついた口調で答へるのである。『一時間……その間に、私は全生涯よりも貴い事を知りましたよ。』と。彼の知つた事、それはどん底の人間、惡人と云はれる人間の持つ正義であつた。



烙印されたる苦艱（二）

（婦人革命家の一生）

ヴェラ・フグィネル手記
大竹せい抄譯

—チユリッヒにて—

チユーリッヒへ行つてから、私は二年間といふもの醫學の研究に夢中であつた。

その時私は十九歳であつたが、一分間の時間も惜しまれたので、何の娯樂にも氣を向ける暇は無かつた。だが解剖學をやつてゐた妹のリヂヤは、やがてワルワラ・アレキサンドロワ女史と知り合ひになり、彼女を經て、ロシアの婦人留學生團體へ加盟した。そして間もなくその人々と一緒に住むやうになつた。その連中は、一八七二年にチユーリッヒへ亡命して來たエム・サージンを中心として、讀書クラブを組織した。

その讀書クラブには、その頃外國で出版されてゐた各國語の歴史、經濟、社會問題等の書籍が集められた。また勞働問題に關する、露佛獨三ケ國語の雜誌や新聞が揃つてゐた。その割合に文學や普通の教課書は非常に尠なかつた。後で分つたことであるが、讀書クラブの組織者は、一定の目的をもつて居たのであつた、つまりそこへ集まる讀者に、革命的な、社會主義的な教化宣傳をするためであつた。

—婦人討論會—

その頃、面白い挿話（エピソー）があつた。

講堂で私の隣に座つてゐた女學生が、「今晩八時にパルメンゴッフへゐらつしやい、そこでは婦人大學生の集會がありますから」と云つた。云はれたまゝに私はその時間に出掛けて

みた。そこには五十人許り集つてゐた。醫師の妻君で婦人大學生のエンマが議長席についてゐた。『我々は、婦人討論會を組織するために集つたのです、討論會の目的は――論理的に意見を發表することを學ぶためです、普通、婦人はいろ〳〵な集會で、發言をせずに、ある場合には男子よりもすぐれた智識を持つてゐても、沈默して遠慮してゐる有樣です、そして演壇に立つのは男子許りです。我々は演說を學ばなければいけない、そこで先づ男の居ない婦人ばかりの討論會で、自由に自分達の意見を吐くことを學びませう……』といふわけであつた。

　最初の討論會では、會衆はみんな生々とした若い人々であつたのに、その論題は『死』に關するものであつた。自殺をするものゝ心理が正當であるか、ないか、といふやうなことが盛に議論された。

　第二回の討論會では、アレキサンドロワ女史（その後ナタンソンに嫁し有名な革命家となる）が立つて、ステンカ・ラジンの農民一揆を論じた。無論ラジンの英雄としての評價に對しては、誰も反對しなかつたので……討論は餘り面白くなかつた。

　その次の第三回目の我々の討論會は、嵐の樣な空氣を捲き起した。問題は、その頃非常に燃燒的なものとなつてゐた、現代の文明と文化のもとで如何なる社會革命が行はれるか？　また社會革命に際して現在の文化が、どうなるか？　といふ問題であつた。文明は今迄に人類の多數――勤勞する者の大衆に對して何を與へたか、また現在何を與へつゝあるか？　が論ぜられた。

　かくの如き文明と文化を維持すべきであらうか、または破壞すべきであらうか？

　ルツソーの思想、また殊にバクーニンの思想的影響のもとに、何れも文明は當然破壞さるゝものである、その文明は永い間たゞ〳〵人類の少數特權階級の爲めにだけ役にたつたもので、人民多數を束縛する武器であつたのだから……と誰れもかれもが云つた。

　現在の制度が壞れる時、文明は跡かたもなくなる、――人類はそれによつて何ものをも失ひはしない。破壞されたるあとには、新しい文化が發達し、新しい文明が咲き出でる。然しそれは寄生蟲の小さな集團のためにではなくて、あらゆる勤勞者のために骨となり、血となる現在以上の文化的な科學

と藝術の價値高きものを興へるであらう。或るものは熱心にこれに反對して、深刻な犧牲によつて創造された文明を擁護した、文明を破壞する必要はない、たゞ社會の上層階級だけが利益に浴する經濟制度を破壞すればいゝのだ。我々は――と彼等はいつた――現代の經濟組織をあらためて、現在特權階級だけが浴してゐるすべてのものに、大衆が浴するやうな社會の建設につとめるだらう、と。

論爭は火のやうに燃え立つた。秩序正しい討論は破れて、喧噪と混亂のうちに狂氣のごとく、文明を破壞したり、打ち壞したりした。喧噪と叫喚は極度に達し、議長のエンマ女史が、いくら、鐘を鳴らしても止むどころではなかつた。みんな自分の云ひたいことをいはうとして、人のいふことは聞かうとはしなかつた。論爭者の一人は興奮のあまり、とう／＼鼻血を出してしまつた。それでも我々の爭ひは止みはしなかつた。とう／＼議長はヤケに鐘を鳴らしつゞけて、稍々沈まつたのを見計らつて立ち上りさま『諸君！　全ヨーロッパが我々を見てゐるといふことを考へて愼重に！』と、ナポレオンが埃及でピラミツドを踏み臺にしたやうな態度を見せたのでみんなふきだして笑つてしまつた。

そこで氣が稍々緩和されたので、暫くの間はなほ贊否の議論がつゞいたが、やがてみんな疲れきつて閉會することにした。しかし論爭は會場から街へ出てからも、みんなの間でつゞけられ、靜かなチューリツヒの夜の町並は『破壞！』！『保存！』の聲で滿ちた。

――『フーリチ』團

讀書クラブの方はます／＼盛になつて行つた。絶えず、やれ勞働者の罷業援助、それロシアからの亡命者援助、更にまたスペインの××援助なんのかんのと寄附金募集の貼り出しがべた／＼と貼り出されるやうになつた。かうした中で、社會主義の研究に興味を持つまいとすれば、盲人か聾者になるよりほかはなかつた。さうした研究慾を滿足させるために、『フーリチ』團といふ研究團體が出來た。それは會員の多くが住んでゐた家の主婦の名をとつてつけたものである。その團員はすべて十二人、婦人許りであつた。またそのうちの多くはその後五十人裁判事件に連座した連中である。この團體は、次のやうな目的をおいた。

一、社會主義思想發達の研究――トーマス・モーリスから

始めて最近まで、その中へはフーリエ、サンシモン、カツベ、ルイブラン、プルードン、ラツサール、が含められた。

二、經濟學の研究。

三、國民運動と革命の研究。

四、西歐に於ける勞働問題の實際的研究。

英國トレドユニオン、インタナショナルの歷史、ラツサールの組織したドイツ勞働組合總同盟の歷史の研究。等々々

ところが一八七三年の夏、チューリツヒの我々の生活がます〳〵緊張して來た時、ロシア政府からの命令で、すべての婦人留學生はチューリツヒ大學を引き上げよ、若しこれをきかない場合には、ロシアでの開業試驗を與へないと云つておどかしてきた。何れもフイの命令に驚いた。その理由として擧げられた中に、社會主義思想に引き入れられるといふことの他に、すべての女が非常に墮落したからといふ點があつたそして、ロシアの婦人は學術研究の名にかくれて『自由戀愛』を勝手氣儘に樂しむために、外國へ行くと云つてあつた。この命令があつてから直ぐ婦人留學生總會が開かれて、そこでこの侮辱に對する抗議書を書き、そしてそれを全ヨーロツパの新聞に掲載することが提議された。

殘念なことには、意見は二つに分れた。保守的な連中——上級生——はそれに反對した、その連中は屈辱を憤慨しない許りか、抗議書に署名をするなり、それには參加しないと云ひ出した。そのおかげで問題はうやむやになつた。

命令がたゞ『チユリツヒから引き揚げろ』とだけあつたので、なほ外國で勉學をつゞけたいものは、他の地方の大學へと替つて行つた。

それ以來チユリツヒの連中はばら〳〵になつた。ある者は學資が缺乏した關係から、またある者はスヰツツルで知り得た思想を實際に適用するために故國へ歸つた。そしてまた他のものは、パリや、ベルンやジユネーヴへ行つた。

この時代に私自身の生涯には多くの變化が起つた。夫と私との思想上の相違は、かうして多くの人々と話し合ふ機會が與へられてからはつきりしてきた。夫は上級生の保守派に加擔したし、私は若い極端派に身方した。例へば、フーリチ團の研究會でも、その連中は夫を好かなかつたので、私もその中からかなり長い間除外されてゐた。そのために私は非常に

自尊心を傷けられた。

恰度その頃、私の思想には他の連中と同樣非常な變革が起つた、私達は前に目的としてゐた醫學、農學、工學と云つたやうなものからは興味を失つた。それよりも人民の苦艱を輕くすることが先だと思ひ出した。醫士も人類の惱みを輕くする仕事には違ひない、然し投藥によつて輕くされる人々の惱みは一時的なものだ、もつと根本的なもの――住宅、營養、衣類などの、めぐまれない、わるい狀態が改められない限りは、病人はいつまでも惱みをくり返して癒やされることはないと思はれた。

目の前に見られるいろ〳〵な社會的な不合理――それを變革するためには、現在好い狀態に於かれた階級が、その優越權をみづから放棄する筈はないのだから、どうしても鬪爭によつてその目的を達しなければならない。そのたたかひをするためには、これに最も利害關係をもつ人々と――勞働者と結びつかねばならない。それらの人類の多數の利益を思ふ人々は、人民の中で××××思想を宣傳し、人民を、その理想のために積極的にたゝかふやうに組織しなければならない。さういふ考へが私の頭腦を一杯に支配してゐた。

一八七三年の夏期休暇がやつてきた、妹のリヂヤと私は、學生仲間と、ネヴシヤテル湖畔の別莊地へ行つて生活してゐた、ある靜かな晩葡萄畑の間を散步しながら、妹は非常にちからの入つた言葉で私に云つた。……私が、すべてのちからを××事業のために捧げる決心がついたかどうか？　私が、若し必要な場合には、夫との一切の關係を絕つ勇氣があるかどうか？　私が、その仕事のために學問を捨てゝ出世を斷念するかどうか？　と尋ねた。私は熱意を込めてそれに應じたそれから妹は私にたいして、ロシアで活動しやうとする×××××がすでに組織されてゐることを話した。そして私の前でその團體の規約と綱領が讀みあげられ、その各條について私が同意を表したので、妹は私がもうそれで團員となつたことを宣告した。（以下次號）

讀者を三倍するために！

本誌をよみ終つたら、あなたの友人にすゝめて下さい。
あなたの友人から、**二人**の讀者を紹介して下さい。
「**婦人運動**」の存在を、あなたの手から、口から、ペンから、吹聴して下さい。

祭

榎本八十子

御輿が通る爲に、その路の上に伸びてゐる立木の邪魔な枝を伐り拂ふことに、四日許り前の寄合で決まつた。そして、それは青年會の人達のする仕事として、小雨の降る日の朝早々から始められた。村の祭はもう四日の間に迫つてゐた。

「用心してゐねえと大變だぞ、みんなあの通りえらく氣が立つてゐるんだからな」

姑は古背負ひ籠の中に丸めてある繩の屑をぼろ〳〵と引つ張り出して、丈口の方へ出ていつた。路上に伸び出てゐる山茶花や椿や樫の木を內庭の方に引つ止めて置いて、面白半分、腹いせ半分で伐り捲くつて來るであらう青年達の手を免れやうとする爲だつた。

「怎うして置けば伐られつこなしだ、何も一日や二日のことで、やつと之だけに育つた木を打つた切られて堪るものか、それも、いつかのやうに、大演習があつた時なざあ、こりや仕方がねえからおつ切つたやうなものゝ、御輿が通るのに邪魔だからとか何とかかつてんで何がよ」

姑はいつもになく今年の秋祭を前にして不機嫌だつた。嫁のひろにも、姑の不機嫌はそつくりその儘感じられるものだ

つたが、あんまりもうそんなことには拘はらないで、默つて見てゐる方がいゝのにと、彼女は思つてゐるのだつた。

それは、五日程前の出來事だが。

空の青々晴れた日の午後、姑はいつもの櫟並木の傍の里芋畑で働いてゐた。ふと、何氣なしに體を伸ばし顔を空の方に振り向けた時、突然、ばさばさあつと凄い羽音を立てゝ白い鳥が舞ひ飛んで來た。はてと思ふ間に、隣の畑で働いてゐた周さんのすぐ目の前の陸稻畑に降りやうとしてつーと羽音を澄まして舞ひ下がつた。すると、恰度、天秤棒を持つてゐた周さんは、それを握り直すといきなりその白い鳥めがけてばたつと打ち下ろした。

白い鳥はすぐに、ばさりと、脆くも陸稻畑の中に打ちのめされて息が絕へた。純白な美事な羽毛を持つた鷺鳥で、その鳥は周さんが肥汲みにゆく上の林の中のある邸のものだつた。周さんはそれを百も承知で、容赦なく打ち殺してしまつたのだ。

「何も殺さなくつたつて濟むことなんだによ、そんなにも祭がやりてえのかなあ」

それを目擊して來た姑は、あの時の周さんの凄い權幕を思ひ出してつくづく感じた風だつた。周さん達が若い者達の先きに立つて、祭の當日に入谷の澁柿横町で、萬作踊りを頼んでやらうと云つたのを老人達に反對され、幾度躍起になつて騷いでも斥けられるので、何かにつけて當り散らし度い氣を周さん始めみんなが持つてゐた。反對をする老人の家の垣根の樹の葉つぱは通りすがりの度にひんむしつたり、路端の石塊まで自棄に蹴つ飛ばして見たりして、何か荒々しいことに心の鬱憤を打つつけていき度いらしかつた。そして、祭の日には出來るだけ暴れ狂つてやることの樹を伐る時にや、どれも之も片つ端から空坊主にしてやるのと、えらい威しを觸れ廻つて騷ぐ若者に、老人達は困つた顔をしてゐるのだつた。

「萬作をやつたり、茶番をやつたりするのが惡いと云ふじやない、だが、今年のやうな不景氣に餘りそんなことで馬鹿騷ぎは出來無い筈だし、賣るものだつて馬鹿安いときてるんじや、ちつたあ考へたらよかろ」

「一年に一遍の祭だてえのに、吝々するない。ちつとん許りの金に出し惜しみをしやがつて、不景氣もへちまもあるものか」

いつになつても果てしのつかない云ひ合も、結局若い者の負けになつて、神樂をやることも、萬作踊りをやることもみな取り止めとなつて、御輿を擔ぐことだけやつと許されたのだ。

「ふんとに今の若い者等、氣位えべえ高くつて、人に逢つたつてろくさつぽう挨拶一つしでかしやしねえ、何だ、この糞婆あ位えの調子で、あの仁ちやんの息子なんか何だ、惡るくも無えのに眼鏡なんか掛けて、腕時計して肥引きに行かあ、年貢も拂へ無えでがつがつしてる癖によ」

そんな時、ひろは姑の憤怒にじつと心を搏たれるのだつた。二十代で寡婦になつた姑が、たゞ意地と、一人息子の强い愛情とでここ四十近くを泥にまみれて世間と戰つて來たのだ。麥飯を炊き、不味い味噌汁を作る事より外、何の知識もなく餘裕もない貧底の生活の中から、息子を中學に入れ、師範に入れやつと小學校の敎師にまで漕ぎつけた今の生活は、姑にとつて勿體ない程、落ち付いた樂なものといふまでになつたのだ、だが、多少ともくらしが樂になればなる程、姑は勞働で鍊へ上げた頑固な體を一日戶外に曝して根氣よく麥や大根、甘藷、馬鈴薯、西瓜、その外のあらゆる野菜物を丹精した。そしてそれらの野菜物を知人に配つたり、町の八百屋に賣りに、姑自身朝暗いうちに背負出してゆくのだつた。

彼女の必死の努力に、密な驚きを以て見てゐる村の誰彼も、彼女が貧しくて、ぼろに埋まり乍らも分に過ぎた敎育を息子にさせてゐることを嘲笑し侮蔑したのだ。そして彼女を見下げた眼は、何かにつけて冷く光るのだつた。

思つたより打算的な、質朴などゝは一口も云へないやうな土地柄としては、それも當然のことかしらと、嫁のひろも此頃ではすつかり土地の氣風に馴染んだ氣持だつた。

…………………

「この太い樺だけは俺の手一つではいかねえから、ひろよ、ちよつくら手を貸してくんなよう」
姑は隣家との境の垣根際から一本すくつと伸びて、通りの方に太い枝を出してゐる樺を押へ乍ら怒鳴つた。ひろはすぐに出てゆく積りで、何處かへ脱ぎ忘れた駒下駄を探す爲に手間取つてゐると、氣短な姑は木小屋の方に何か探しに來た。と、もうがやがやと樹伐りの若者達の聲が横町からすぐに耳近くに聞へ出した。
「やにつこいもんじや樹がでかいから云ふこときかねえ、棕梠繩ででもやらざあな」
此時、ひろは、その境の樺の枝が大きく揺れてゐるのを見た。
「ちよつと、おばあさん早く行つて見て」
ひろが倹しい眼付きで叫んだので、姑は通りの方へ馳け出していつた。
「あつ、それや、今、うちの方に引つ込めて置きますから、その儘にしといておくんなさいよう」
姑が怒鳴つた。
「いいや、打つ伐れ」
そういつて指圖してゐるのは周さんの聲だつた。ごぎごぎごぎと、刃切れのいい鋸の音が聞へたと思ふと、やがてばさありと、樺の地に倒れる音が、否、有樣が、じつと軒下に立竦んでゐるひろの全身を慄はした。
「随分だ、今引つ込めるからと云つてんのに」
姑はおろおろと、その根元から伐り倒された巨きな樹を、抱へ上げる樣にして引きづつて來た。と、彼女の背後で、若者の一人がその引きづられてゆく繁つた枝を踏んで又突き放したので、姑はよろよろと前のめりに倒れかゝつた。
「何するつ」
姑は、がんとした聲で叫んだ。
「婆の癖に出しや張るからよ」
「樹を伐るなあ、寄合ひで決めたことだ、俺つちの知つたことかい」
「之ん許りの立木に吝臭いこと拔すな」

口々に、威勢に驅られて嘲つてゆく一人一人の聲は、ひろに瞭りとその顔を思ひ浮べさせた。

「まあ、何といふ、何といふ亂暴な言葉だらう」

ひろの背中にはじりじりと油汗が流れた。

無念さうに顔を歪めてずるずると樹を引づつて來る姑の傍に、ひろは走り寄つてそれを手傳つた。姑の顔を眞正面には見られない氣持がして、ひろは、雨の爲に餘計しつとりと重くなつた樹を兩手で力一杯握りメめた。

「ふんとに、ふんとに、人が頼んでゐるのに、伐つちまへ伐つちまへつて、みんなして人を馬鹿にしてやがる」

姑は庭の隅にその樹を叩きつけた。そして蒼ざめた脣を噛み碎くやうにして、うふつうふつ！　と啜り泣きはじめた。ひろの眼の中もじつと熱くなつて來た。

「ね、おばあさん、もう伐られちまつたもの仕方がない、家の許りでもないらしいから」

ひろがそう云つて、姑のぼさついた髮の毛を見やつてゐると、横町の方から何か、わめいて來る人の聲がした。

「みんな何處へ行きやがつた、飛んでもねえことしやがる、この我鬼共――」

「あ、龜さんよ、おばあさん、龜さんの植木場を荒したのかも知れない、きつと」

ひろは、怒氣を滿身に籠めて駈け過ぎていつた龜さんの心持を追ふやうに通りに出て見た。矢つ張りそうだつた。龜さんの見事な植木場の通り路の方に植へられた椿、楓、山茶花などを滅茶滅茶に伐り捲くつたのらしい。

龜さんの怒り責める聲と、若者達の常軌を逸した罵聲とが入り混つて小雨の中に聞へた。

ずうつと見通しがつくやうに、何處の家の樹も伐り拂はれてゐた。が、それらは、伐られて、結局骨折り儲けをしたやうなものが多いのだとひろはつくづくと見渡し乍ら思つた。

「それにしてもあの老人に向つての侮蔑の言葉は何としたことだ。それでも之が、模範的な青年團のすることか」

ひろはそれを思ふと、例令、名前だけにもせよ、此の村の支部の青年副團長に祭り上げられてゐる良人へ對つて、この時瞭りと烈しい敵意を感じたのだつた。

「今年の祭りにや、奉納も何もしてやらねえから」

それを聞くとひろは、一刻も早く、誰もがこんな厭な昂奮からさめて、靜かな祭を迎へ度いものだがと、一生懸命に思ふのだつた。

編輯室にて

奥　むめお

何となしに今年はいゝ年のやうな氣がして正月以來ずつと晴れつゞきで明るかつたのも嬉しく思はれました。

職業婦人社の新年會は七日にしましたが總勢二十七人、(用向きの都合であとになり、先きになりして出合へなかつた人もあつて殘念でしたが)事務所の天井が拔けるほど騷いで、笑つて、愉快なことでした。一年に一度や二度は、かうして全ての心懸りを忘れて遊び拔くのがいゝと、あとでこの次の計畫はいつにしやうかと早や手廻しに相談をもちかける人も出たほど、みんな大喜びでありました。

○

事務所に備へつけの書物やパンフレットも大分澤山になりました。女として私たちに何より欠けてゐたのは讀書の習慣です。大いによみませう。

一般社會運動の狀勢も、今年は餘程重大な展開をみせてがつちりと根を持つことと思はれます。婦人としての私たちも、力相應に社會改造の大事業に參加して——たとえ衣から入つてゆけぬ事情にある人だつて、いろいろその人に許された分野から働いてゆく餘地がいくらでもある筈ですし、加勢してゆく道は多いのですもの、職業婦人は職業婦人なりに、家庭婦人は家庭婦人なりに、今の社會の實相を深くみつめて、しつかりやつてゆきませう。

○

殊に、今月は、普選第一年の總選擧を行ふことになつてゐます。一千萬に近い新有權者——これまでの制限選擧のときの約四倍の投票がどう動くだろうか、興味の深いことであります

政界は腐敗墮落その極に達した、とか、既成政黨はもはや頼むに足りない、一日も早くぶつ潰さなくてはならぬ、とか盛んなかけ聲だけは永年私たちも聞き慣れて來たことでありますが、さて、同じやうな政黨が、同じやうな政治家が、同じやうなことをくり返しつゝ今日まで持ちつゞけて來てしまつたわけです。

この昭和劈頭の普通選擧にあたつて、新興階級——即ち今度はじめて有權者になつた人たちの手で、これまでの政界を引くり返して新しい政治の基礎を確立しなければうそだと思ひます。

○

それにしても、三千五百萬の婦人が、たゞ婦人であるといふだけの理由で未だ取殘されて政黨に加入することも出來ず、被選擧權も、選擧權も許されてゐないとは、何といふ時代錯誤なことでせう。

婦人は、一日も、早くこの政治的な自由を獲得しなければなりません。少數の先覺者婦人は長年この運動のために奮鬪してゐるのですけれど、もつと熱烈な婦人大衆の聲が加つて、この運動をはげまし、輿論を高めなくては默目です。この點、各地方から婦人が火の手をあげてほしいものです。

それにしても、婦人のかうした問題について堂々とまじめて鬪つてゐるのは無產政黨ばかりです。

婦人として助くべき政黨は、無產政黨より外ありません。よし、現在婦人は、半人分の政治的自由しか許されてゐないとしても、私達に出來るだけの方法で、大いに無產政黨を助

けたいものだと思ひます。

○

職業婦人社としても、今年は大いに働いてゆきたい積りでゐますが、何よりもまづ「職業婦人の家」を建てるために努力を集注いたしませう。

讀者としてのみなさんにも、お加勢願はればならぬことが澤山あります。どうぞ、社會的に重要なこの「家」が、立派に、婦人の協力にて一日も早く出來上ります樣にと、私は、朝も晩もそれを念じてゐるのです。

婦人會館を建てる、といふ事は、しば〳〵あちこちの婦人團體の記念事業として取上げられてゐる、流行の樣ですが、私たちのこの家は、さういふ風にして何かの記念事業として、事業のための事業にえらび上げたものでは決してありません。

○

近頃、都會でも地方でも、職業につきたいと道を求めてゐる婦人が溢れ出して居るし、職業婦人の數は目に見えて増してゐるのにそれらの、職業婦人諸子が一體現在婦人の職業生活がどんなものであるかについて考へてみてゐられるでせうか。

今日の職業婦人は、ほんの、安上りだからといふ理由で、從順だからといふ理由で、雇ふ方でもお得樣の方でも、若い女の方が何となしに氣持がよいからといふたゞそれだけの理由で女を歡迎してゐるにすぎないではありますまいか。

生活の獨立を求めて職業生活に勇ましく進出した婦人が、それだけの待遇に甘んじていゝでせうか。まして、家族のパン代におはれてムリな職業生活をつゞけなければならぬ婦人として、この不當な待遇に挑戰しないでゐられませうか。

これは決して單なる婦人問題ではない、まことに深刻にして重大な社會問題であります。御一緒に、この方面の問題のために働いてゆきませう。

○

二月十七日に私は、富士の裾野に開拓せられた農村青年共働學校(岡本利吉氏の創設)に「農村の婦人問題」に就いて話しにゆく事になつてゐます。この新しい學校についての委しいたよりを、三月號誌上にお待ち下さい

× × × × × ×

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部 貳拾五錢(郵税五厘)
半年分 壹圓四十錢
壹年分 貳圓八十錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和三年一月卅一日納本
昭和三年二月五日發行

東京市外中野町圍三二四四
發行編輯兼印刷者 奥むめお
東京市神田區淡路町二ノ三
印刷所 協營社
東京牛込區市ケ谷本村町四
發行所 職業婦人社
振替東京六四一六〇番

◇……近刊豫告……◇

千葉命吉先生著
哲學行脚 世界遍路

マーク・トウエン原著　村岡花子譯
王子と乞食

ギヨオ原著　西宮藤朝先生譯
義務と制裁無き道德

大石隆基著
素朴生活

〔解放群書〕(25)

神近市子著

◇四六判二百五十頁
◇定價壹圓送代拾錢

最新刊

未来をめぐる幻影

内容

◇未來をめぐる幻影
◇アイデアリストの死
◇ある鼻の改造
◇古の街の一角
◇雄阿寒おろし

東京芝區新櫻田町十九　**解放社**　振替東京三六九四四番

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
昭和三年一月三十日印刷納本
昭和三年二月五日發行（毎月一回・一日發行）

婦人運動

第六巻
第二号

（定價二十五錢）